683-263
1200501578081
263

布哇案内

日本郵船株式會社編

内案哇

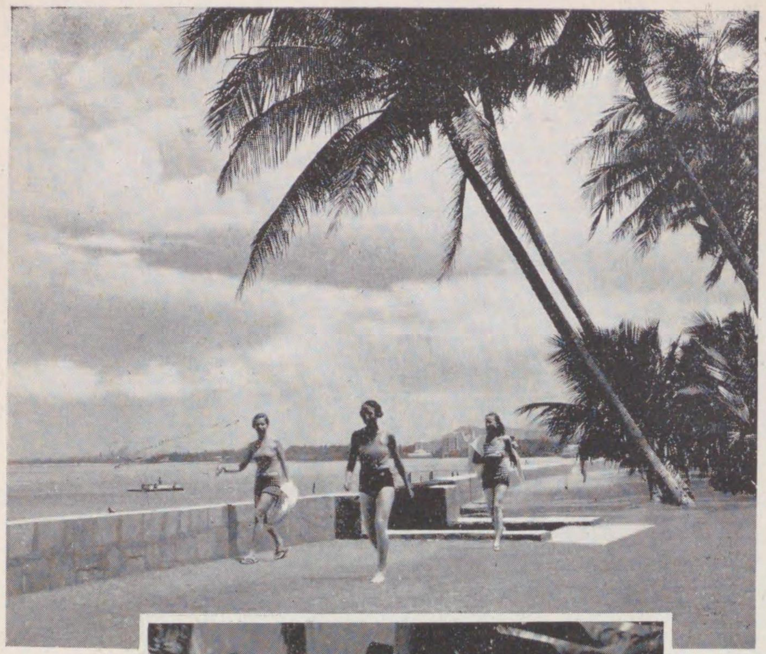
683
263

日本郵船株式會社

布哇案内

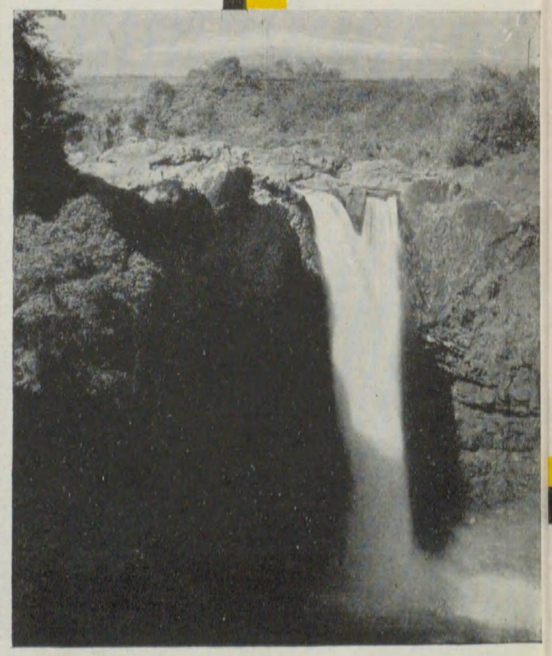
郵船客船上よりホノルル港を望む

日本郵船

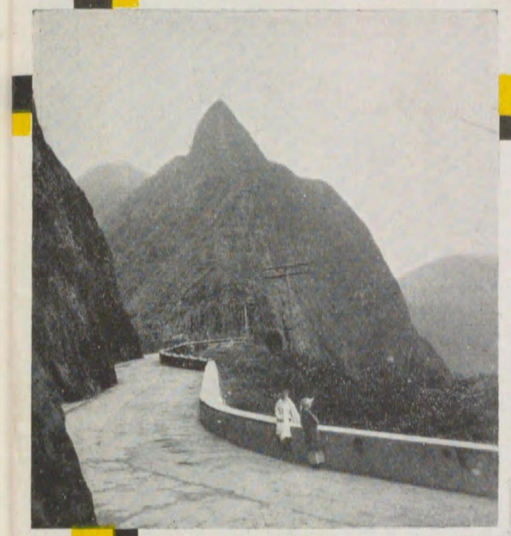


ハワイのフラ踊（右）
ホノルルのワイキキ濱（上）

ハワイ國立公園のオヒア樹



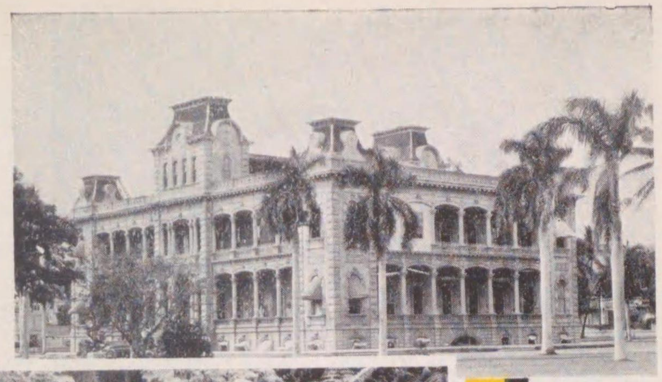
ハワイ島の虹の滝（レンボー・フォールス）



ヌアヌ・パリ

銀剣草（右）
パンチボールよりホノルル港展望（上）

キラウエア火山のハレマウマウ（上）と道しるべの標柱（右）（ハレマウマウとは布哇語にて「終なき火の家」の意）



ホノルル市の布哇縣廳

マウイ島のアペ・アペ草と樹羊齒

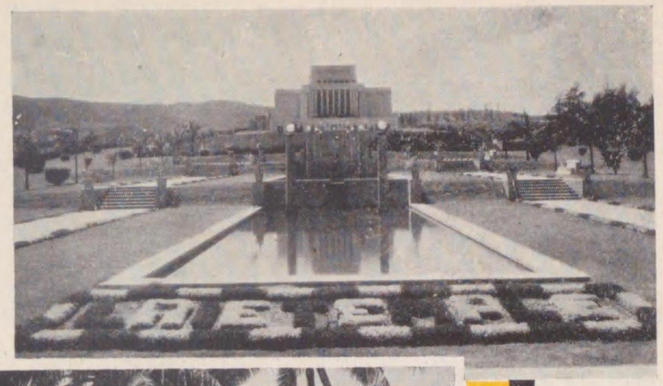
ホノルル名物の波乘り

珈琲樹の花

珈琲樹の實

砂糖黍の收穫

オフア島の水田耕作(右)
ハワイ土著島民の饗宴(上)



ホノルルのモルモン宗寺院（上）

ハワイ土人の草葺家屋（上）

キラウエア火山への登山路（右）

683-263

はしがき

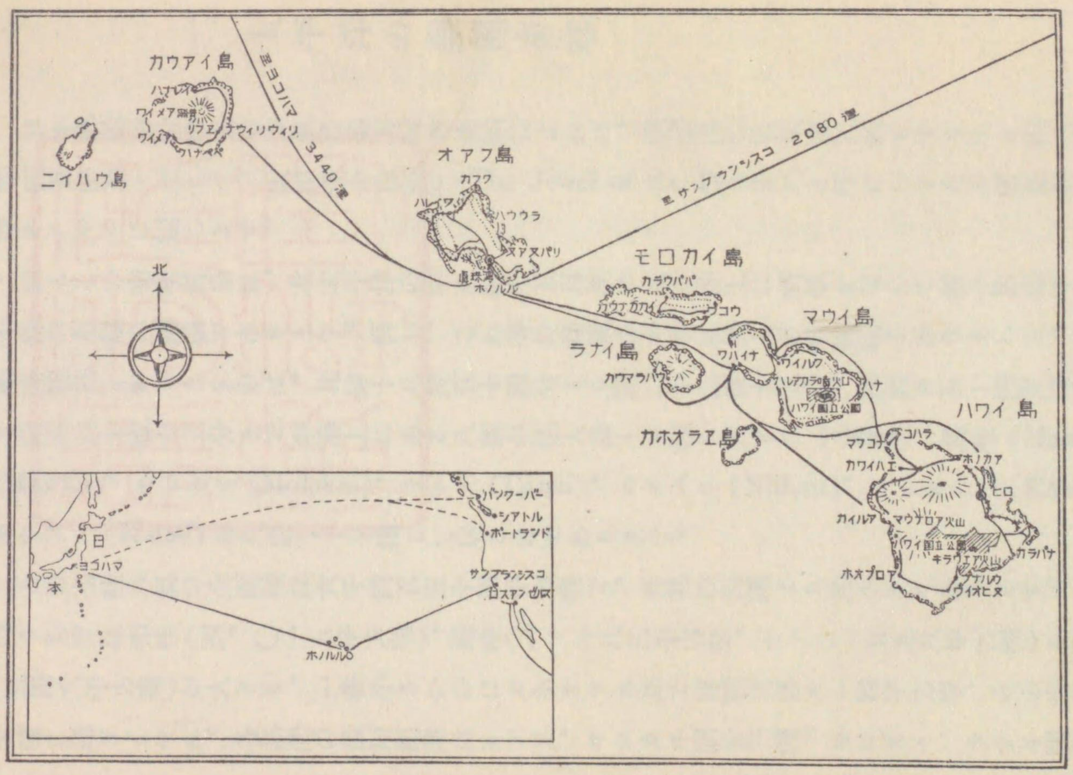
漾々たる太平洋のたゞ中に、白銀盤上點々する青螺の如く横はるは、これ常夏の布哇群島であります。熱帶圏内に在つて、然も熱帶の氣候的短所を殆ど有たない樂園であります。風光の美に加へて更に習俗の奇異なるものが見出されます。且つ同島には總人口三十八萬の内約十五萬の在留同胞と日系米國市民とが活動してをり、歴史的に見ても吾邦とは淺からぬ關係があるのであります。

この案内書は、當社の桑港航路或は南米西岸航路の船便によつて、布哇諸島の觀光見學を希望される旅客の參考に資せんがために、現在と過去の布哇に就て、その概略を示したものであります。

尚、本案内書の編纂に際して、林三郎、増田禎司兩氏共編『布哇島一周』、日布時事社發行一九三四―三五度『布哇年鑑』、大宜味朝德氏著『最近の布哇事情』、ハワイ・ツーリスト・ビューロー發行の諸印刷物、ホノルル・スター・ブレテン紙發行 "All About Hawaii" 其他、内外人の筆になる同島に關する種々の文獻に負ふところ鮮らざるを明記して謝意を表します。

目次

一、太平洋の樂園布哇……一
二、布哇の勝地……二
三、布哇の年中行事……七
四、自動車料金　五、ホテル　六、在米日本官衙會社銀行　七、郵便電信……九
八、布哇群島の政治組織……一四
九、布哇の諸産業……一七
一〇、布哇の貿易……三三
一一、布哇の果物と植物……四〇
一二、布哇の發見……四八
一三、布哇の歴史……五二
一四、布哇と日本……五七
一五、日本人の布哇漂著史……五九
一六、日本最初の遣米使節の布哇訪問……六四
一七、明治時代と日本移民の渡航……六八


カウアイ島
ニイハウ島
ハナレイ
ワイメア
リフエ
ワイメア
ワイナペ
ヨコハマ
3440浬
オアフ島
カフク
ハウウラ
ヌアヌパリ
ホノルル
サンフランシスコ
2080浬
モロカイ島
カラウパパ
コウ
マウイ島
ラナイ島
カマラパウ
ワハイナ
ワイルク
ハレアカラ火山
ハナ
ハワイ国立公園
カホオラヱ島
ハワイ島
マフコナ
コハラ
ホノカア
カワイハエ
ヒロ
カイルア
マウナロア火山
ハワイ国立公園
キラウエア火山
カラパナ
ホオプロア
アハルク
ヴイオヒヌ
北
日本
ヨコハマ
バンクーバー
シアトル
ポートランド
サンフランシスコ
ニューヨーク
ホノルル

一、太平洋の樂園布哇

日本郵船會社の太平洋航路南方線の客船によれば、横濱出帆後東南に航走すること約八晝夜（三千四百餘浬）にして「太平洋の珠玉」（The Jewel of the Pacific）と呼ばれてゐる常夏の樂園布哇のホノルルに達します。

抑もこの布哇群島は、北太平洋の中心約千五百浬に亙る洋上に斜狀をなして點々散在する大小二十餘の島嶼の總稱であります。併し、これ等の島嶼の大半は無人の岩礁嶋でありまして、今日普通布哇群島と申しますのは、北緯十八度五十四分より同二十二度十五分、西經百五十四度四十八分より同百六十度十三分までの海上にある八個の住人島——卽ちオアフ（Oahu）、馬哇（Maui）、布哇（Hawaii）、モロカイ（Molokai）、ラナイ（Lanai）、ニイハウ（Niihau）、カホオラヱ（Kahoolawe）、カウアイ（Kauai）の八島——を指して居るのであります。

この布哇八島の全面積は六千四百五十四平方哩で、吾邦の四國より稍小さくあります。この八島のうちでは布哇（四、〇一五平方哩）、馬哇（一、一八二平方哩、オアフ（五九八平方哩）それに加哇（五四六平方哩）が大きく、一番小さいのはカホオラヱ島で面積は僅々一四平方哩、その海岸線は三十哩に過ぎません。各島間の最短距離はオアフ、モロカイ間廿三浬、モロカイ、ラナイ間七浬、モ

ロカイ、マウイ間八浬、マウイ、ラナイ間七浬、マウイ、カホオラヱ間六浬、ハワイ、マウイ間廿六浬、ハワイ、オアフ間六十三浬、ニイハウ、カウアイ間十五浬であります。

布哇群島の諸島はいづれも海中に隆起噴火した火山群の名殘でありまして、各島到る處に熔岩の溢流した痕跡を見ることが出來る上に、現にハワイ、マウイ兩島には、灼熱した熔岩を噴出して居る世界的に有名な活火山があります。從つて群島の地質は皆火山岩であります。

氣候　群島の氣候はその緯度より見れば、熱帶圏内に屬してゐますが、何しろ四面環海の小島であるため、貿易風は海上より涼氣を送り、盛夏の候に於ても八十五度を越えず、冬期十二月、一月の候と雖も六十度を降下することは稀であります。記錄としては、最高溫度八十八度、最低溫度五十六度といふ處より見ても、布哇が如何に氣候に惠まれた、文字通り「常夏の樂土」であるかが判ります。從つて四季を通じて花常に咲き、鳥常に唄ひ、果實、穀類も豐饒に實るといふ全く天惠の樂園であります。殊に霧ともつかず、霞ともつかぬ熱帶にのみ見らるる一種特有の水蒸氣の妙なる變化は、この布哇の島、また山の色彩を刻々に變化させ、旅人を恍惚たらしめるものがあります。

二、布哇の勝地

ホノルル市内及び附近（オアフ島）

キヤピトル(Capitol)布哇王朝時代のイオラニ王宮でありまして、ホノルル市の中心にあります。當時の王座はその儘保存され、その他王朝と由緒深い歴史的繪畫が數多く蒐集陳列されてあります。

カメハメハ王銅像(King Kamehameha Statue)イオラニ王宮に面して建つてゐるこの銅像は、ハワイ島ヒロにキヤプテン・クックの布哇發見百年記念として建てられたものの複製であります。

ハワイ王朝廟所(Royal Mausoleum)このハワイ王朝歴代君主の廟を拜觀するには、同地社會局長(Superintendent of Department of Public Works)發給のパスを要します。

ワイキキ濱(Waikiki Beach)市の中央より三哩半の距離にあり、附近は風光の美を以て世界的に喧傳されて居ります。殊に月夜の美觀は人の歡賞する所であります。ワイキキの海水浴場は、これまた汎く人に知らるるところで、同所の波乘りは一名物たるを失ひません。

自動車又はワイキキ行電車で容易に行けます。海水浴場では水泳著、タオル等三十五仙で貸して居ります。波乘り板の貸料金は一日一弗であります。

水族館(Aquarium)ワイキキ海岸のカピオラニ公園にあり、熱帶の海洋及び深海に棲息する多彩にして珍奇な魚類が夥しく蒐めてあります。開館は平日午前十時より午後五時まで。日曜は午後二時より五時まで。入場料は廿五仙。

戰勝記念プール(War Memorial Natatorium)おなじくワイキキ濱にあつて、國内竝に國際的競泳場として知られてゐます。

カピオラニ公園（Kapiolani Park）ワイキキ濱に近接するので、一名ワイキキ公園とも呼ばれてゐます。廣濶な園内は美しき芝生と熱帶樹で美觀を極め、競馬場、ポロ競技場、テニス・コート、動物園、公衆游泳場、大正天皇御即位大典記念として在留同胞が寄贈した噴水塔等があります。

ダイヤモンド岬（Diamond Head）ワイキキ海岸の背面に突兀として聳ゆる古い噴火口の痕で、今ではオアフ要塞となつて居ります。

マノア・バレー（Manoa Valley）四時綠樹茂り、百花亂れ咲く美しい住宅區域であります。ハワイ大學の所在地で、また虹の名所として有名であります。同地で見られる月夜の虹(lunar rainbow)の現象は珍しいものであります。

パンチボール（Punchbowl）市の中央山手に聳えてゐる一死火山の頂點の稱で、海拔五百呎。これに登ればホノルル市は脚下にあり、近隣の風景は勿論、遠くはエワの岬の端より眞珠灣の軍港、ワイパフ、アイエアの耕地等指呼の間にあり、その眺望の佳は方に言語に絶します。山上には仙人掌が叢生して居ります。

この場處には、昔島の酋長が加哇島に遠征して、多くの分捕品や婦女子をとらへて凱旋し、戰勝の大祝宴を開いてゐると、突然山は鳴動し出して噴火を伴ひ、火山の靈が現はれて、怪奇な舞踏を踊つて、この殘忍な酋長を戒めたといふ傳說が殘つて居ります。

ヌアヌ峠（Nuuanu Pali）市の北東七哩にある峻嶮なる峠の絶頂で、海拔千二百七呎。此處より俯瞰展望するオアフ島と近海の眺めは壯大を極めてゐます。パリとはハワイ土語で峠といふ意味でありますが、此處は昔カメハメハ一世が布哇統一に當り、最後の決戰によつて敵を鏖殺した古戰場であります。尙、この峠の下千仞の絶壁を吹上げる風は、その風速世界第三位とよばれてゐます。

エンマ女王博物館(Queen Emma Museum) ヌアヌ行バスの終點にあり、ハワイ王朝の御物を多く陳列してあります。日、水曜と祭日とを除き、毎日午前九時半より正午迄。午後は二時より五時まで開館。

ビショップ博物館（Bishop Museum）布哇の富豪ビショップ氏が其亡妻（王女バウアヒ）を追憶するために、種々の公共事業に投じた莫大な寄附金の一部を以て建てたもので、カメハメハ學校の構内にあり、ハワイとポリネシア族の土族學的、歷史的參考資料たる器物、土人の原始的生活狀態を現はした夥しい模型彫刻を初め、ハワイ王朝の記念物、ハワイの農產、鑛產、動物の標本等を多く藏してゐます。尙、建物の外壁は溶岩を以てし、內側の壁は種々の珍材を以て作つてあります。開館平日午前十時より午後四時迄。日曜は午後二時より五時迄。八月中閉館。入場無料。

砂糖黍竝に鳳梨耕地。砂糖竝にパインアップルはそれぞれ布哇群島に於て第一、第二位を占むる最も重要な產物であります。從つてその大規模な耕作栽培地は實地見學の價値があります。パインアップル耕地としてはオアフ島ワヒアワの高原が最も有名であります。パインアップル罐詰工場（作業季節は六月より九月迄）及び製糖所の參觀見學も忘れてはならないものであります。パインアップ

ルの耕作と罐詰事業とは、オアフ鐵道停車場近くにあるジェームズ・ドール氏（James Dole）を社長とする布哇鳳梨會社が、世界一の大規模のものであります。

眞珠灣（Pearl Harbour）米國海軍の布哇根據地で、ホノルルの西方十五哩の地點にあります。

モアナルア公園（Moanalua Gardens）一名デーモン公園と呼ばれてゐます。ホノルル市より西北へ四哩、シヤフター要塞行バス終點より少し先にあり、園内の布置善美を極めた日本人最負のデーモン氏の私設公園であります。綠の毛氈の如き芝生、熱帶樹の茂み、水石の配置、珍奇なる花卉はその色香を競ふてゐます。尙、中に純日本式の庭園あり、數寄を凝した日本家屋を環つて、池あり、築山あり、玆に佇めば身故國にある思ひがします。

海底公園（Submarine Gardens）カネオヘ（Kaneohe）とハレイワ（Haleiwa）にあります。珍しい珊瑚礁で形づくられた海底公園で、硝子底の端艇に乘つて見學します。ホノルルよりカネオヘへは十二哩、ハレイワへは卅三哩。途中自動車で通る沿道田園の風景は捨て難きものがあります。

ハワイ國立公園（ハワイ島とマウイ島）

ハワイ國立公園（Hawaii National Park）布哇滯在に餘日のある旅行者の是非訪ふべき處であります。ハワイの國立公園は二個處に分れて居り、一つはハワイ島に、いま一つはマウイ島にあります。ハワイ島に在るものは、活火山キラウエア（Kilauea）を中心とする一帶の地を包括し、物凄い溶岩の奔騰する光景を初め、樹羊齒の林、溶岩の峽谷等の偉觀に富み、マウイ島にあるものは、その地域前者に比して小く、大死火山の舊噴火口ハレアカラ（Haleakala）を含んでゐます。

キラウエア火山の噴火山はハワイ島の港ヒロから三十哩、マウナ・ロア山の傾斜にあります。ハワイ土人の神話ではキラウエアの噴火口は火の女神ペレの城であると傳へられてあります。赤熱した溶岩の湖は火山中央の直徑半哩、深さ千二百呎の大穴のなかに限られてあり、且つこの火山には危險な爆發性がありませんから、見物者にとつては絶對安全といつてよい位であります。

三、布哇の年中行事

氣候がよく、四時晩春初夏のやうな布哇では、在住者の氣持も自然のんびりとして居り、年中いろんな催物をやつて居ります。そのうち住民全部が參加する有名な年中行事を次に擧げます。

二　月

カアオナ・カ・マラマ（Kaaona Ka Malama）これは布哇勇士後裔協會（Daughters and Sons of Hawaiian Warriors Society）の子女が毎年催す布哇王國百年の歷史行列であります。我國に於ける京都平安神宮の時代祭と同趣向のもので、布哇王朝時代の風俗を知るに絶好な機會であります。

三　月

凧揚げ（Kite Day）があります。日本の凧とは違つたいろんな形のものが見られます。

四　月

アロハ春祭（Aloha Spring Festival）はこの月の九日から十二日迄ホノルルに於て催される。祭日中は、近接各島から見物人が海を渡つて集まり、ホノルルは數日間お祭氣分で賑はひます。

五　月

五月一日、布哇に於けるメイ・デイはレイ・デイ（Lei Day）といつて、全島の人々はハワイ特有の花を綴つた頸飾レイを贈答し合つて、友情の親密を表はします。

またこの月にはミッド・パシフィック祭（Mid-Pacific Carnival）と稱する全布哇の大がかりなカーニバルが催されます。

六　月

この月の十一日は、カメハメハ祭日（Kamehameha Day）といつて、布哇王朝の創建者カメハメハ大王の記念日であります。

九　月

二日。リリオカラニ女王誕生記念日（Birthday of Queen Liliuokalani）はハワイ王朝最後の君主リリオカラニ女王の誕生日を記念するもので、この日にはホノルル市のウォシントン廣場の女王記念碑の前で、ハワイの有名な唄「アロハ・オエ」が歌はれます。

十一月

秋祭（Fall Festival）一九二九年に初めて行はれ、翌年第二回が催されましたが、これは毎年行はれて居ります。

四、自動車料金

ホノルル市内並に近隣觀光地の遊覽には電車やバスを利用して容易に且つ經濟に目的を達しますが、船の碇舶中に市の内外を短時間に回遊するには、自動車を利用するのが便利であります。

自動車の料金は車體の大小により、一臺一時間三弗五十仙より五弗の見當です。左記は埠頭より

各觀光地への往復に要する六人乘自動車一臺の大體の料金であります。

水族館、ワイキキ濱、ダイヤモンド岬	六弗
ヌアヌ峠	六弗
マノア・バレー	四弗
パンチボール	四弗
モアナルア公園	四弗
右五個處一括巡遊	十五弗

自動車は客船の入港の際、埠頭に澤山客待ちして居りますが、料金に就ては出發前に豫め取極めて置く方が、後で面倒の起る虞れがありません。

五、布哇のホテル

ホノルル市内及び近隣

Royal Hawaiian Hotel（ワイキキ）米式自四月至十二月十弗以上、自一月至三月十二弗以上

Moana-Seaside Hotel（ワイキキ）米式壹人室六弗以上、貳人室十一弗以上　歐式壹人室四弗以上、貳人室六弗以上

Alexander Young Hotel (Bishop & Hotel Sts.) 歐式二弗五十仙、同浴室付三弗五十仙以上

Blaisdell Hotel (1154, Fort St.) 歐式一弗五十仙以上、同浴室付三弗以上

Pleasanton Hotel (Punahou & Wilder Ave.) 米式三弗五十仙以上、同浴室附四弗以上

Halekulani Hotel (2199, Kalia Road) 米式六弗以上

日本旅館としては山城旅館、小林旅館、中村ホテル、西海屋旅館、神州屋旅館、東北旅館（以上ベレタニア街）、米屋旅館、尾道屋旅館（以上リヴァー街）、布哇屋旅館（アアラ公園脇）、ホノルル旅館（アアラ街）、川崎旅館（ケクイ街）、小松屋旅館、九州屋旅館（以上パラマ）があり、他に出入國事務を扱はず旅館專業なるものに共樂館（ヌアヌ街）があります。

ハワイ島

Hilo Hotel（ヒロ市）米式六弗以上、同浴室附七弗以上

Pacific Hotel（ヒロ市）歐式壹弗以上

Volcano House（キラウエア附近）米式六弗以上

Kona Inn (Kailua, Hawaii 海岸附近) 米式六弗以上

加哇島

Lihue Hotel (Lihue, Kauai) 米式六弗五十仙以上

Waimea Hotel (Waimea, Kauai) 米式四弗以上、歐式二弗五十仙

馬哇島

Grand Hotel (Wailuku, Maui) 米式五弗以上

六、在ホノルル日本官衙、銀行、會社、團體

帝國總領事館　Nuuanu Ave.
横濱正金銀行支店　1742, Merchant & Bethel Sts. (Tel. 5709)
住友銀行支店　King & Smith Sts. (Tel. 3080 or 5665)
日本郵船會社出張所　753, Bishop St. (Tel. 6198–6199)
日本人商業會議所　Yokohama Specie Bank Bldg.
日本人病院　427, Kuakini St. (Tel. 5787)
日布時事社　920–928, Nuuanu St. (Tel. 6091)
布哇報知社　Queen St. (Tel. 3052)
日本人大學倶樂部　Japanese University Club (米國大學出身日系市民の團體)
國際女子基督教青年會　1040, Richards St.
布哇日本人公民協會　Hawaiian Japanese Civic Association
日本料理店　ホノルルには純日本料理を供する望月(647, Kunawai Lane)、夏の家(69, S. School St.)、しほ湯(1811, Alamoana Road)、春潮樓(2101, Ahi St.)、ヌアヌ溫泉(東北旅館經營)等の料亭があります。同地寄港の際は、上陸して異國の地に打寛いで故郷の料理に箸をとるのもまた一興でありませう。

七、布哇よりの郵便竝に電信料

郵税

	封書	端書
ホノルル市内	二仙	一仙
群島内、米國本土、墨西哥	三仙	一仙
右以外の萬國郵便加盟國	五仙	三仙

電信料

	普通	間送
航海中の船舶へ	一語につき 一八仙	—
桑港及び其近接都市	〃 二〇仙	一〇仙
右以外の加州各地	〃 二五仙	一二仙半
ニユウヨーク	〃 三五仙	一七仙半
日本	〃 四八仙	二四仙

右電報料の他に一通につき十仙宛の電信税を課徴されます。

八、布哇群島の政治組織

布哇群島は北米合衆國の一縣（Territory）として統治されて居りますが、その政治組織は本國に於ける州（State）と略同様で、米國憲法及び法律が適用され、縣の事務は華盛頓中央政府の國務長官（Secretary of State）によつて管宰されて居ります。群島の住民は米國本土の市民と殆ど同格な市民權の行使を附與されて居りますが、米國大統領、國會議員、縣知事等の選擧權は與へられて居りません。布哇縣政府は立法部、行政部及び司法部の三部より成立つて居ります。

立法部　立法部は米國本土の各聯邦州竝に聯邦中央政府と同じく二院制であります。卽ち縣議會は十五名の議員を有する上院と、三十名の議員を有する下院より成立つて居ります。通常縣議會は二個年毎に、その年の二月上旬に縣知事によつて召集され、開會期間は六十日であります。議員の任期は、上院議員は四個年、下院議員は二個年であります。上院議員の定員十五名の半數が、毎二年目毎に改選され、定員三十名の下院議員は、二年目毎に全部改選といふことになつてゐます。

改選には十月に先づ豫選を行ひ、各黨の定數公認候補を選擧し、十一月の本選擧には、豫選に當選した候補者の中から、規定數の議員を選擧するのであります。現在（一九三三年）日系米人から四人の縣會議員が出てをります。知事は必要と認める場合、臨時縣會召集の權能を有してゐます。

行政部　縣知事は申すまでもなく縣政府の行政長官でありまして、知事の下に書記官があつて知事の不在中その代理をします。知事とこの書記官は、共に米國大統領の任命するところで、任期は四個年であります。知事の下に直接行政を掌理する檢事、會計、土地、土木、教育、會計檢査、測量、衞生、農林、豫算の各局（デパートメント）があります。各局長の任命には知事があたり、又その上、縣會上院の承認を得なければならぬことになつてゐます。

縣はホノルル市郡、布哇郡、馬哇郡、加哇郡の四市郡より成り、ホノルル市郡は、市長、警察署長、刑事と民事、刑事に對する各一人の檢事、會計官、書記及び市郡參事會員七名を有し、他の郡公吏は郡參事會議長のもとに、六名の郡參事會員の他、郡書記、會計檢査官、檢事、會計官、警部を主腦として地方郡行政に當つて居ります。

司法部　布哇縣司法部は、大審院、巡回裁判所及び區裁判所より成り、大審院は院長以下陪席判事二名、孰れも大統領によつて任命されるものであります。巡回裁判所は縣下に五個處あり、第一がホノルルに在つて、これには第一、第二、第三各部の判事の他に家庭裁判所判事がをります。第二は馬哇のワイルク、第三は布哇島のカイルア、第四が布哇島ヒロ、第五が加哇島リフェに在り判事が一人宛をりますが、この巡回裁判所の判事もまた大統領によつて任命されるのであります。

區裁判所は巡回裁判所の次ぎにあつて、縣下二十九個所に設置されてあります。判事は大審院長が任命し、取扱事件にも制限があり、刑事關係では、一年以下の禁錮、民事關係にあつては、三百

弗以下の事件を審理することになつてゐます。

右の他に土地問題係爭を取扱ふ土地裁判所、租稅關係の租稅控訴法廷等もあります。また他に縣司法部とは獨立して、合衆國法規違反事件を審理するために合衆國裁判所が設けられてあります。

次に布哇在住各人種の政治的狀態に就て略記します。布哇に於ける上下兩議院議員、官吏等の選擧に當つて、其選擧權を行使する投票者の人種的分類は、各人種の人口上の分類とは大に異つてゐます。大體に於て、布哇人及び混血布哇人は凡て米國市民であります。また葡萄人の六分の五は出生に依る市民であり、また幼時布哇に渡航し來つたものは、布哇公立學校に通學したことによつて米國市民に歸化し得てゐるのであります。

一九三四年十一月の本選擧に於ける各選擧區の人種別竝に男女別登錄投票者數は、左表の通りであります。

	布哇人	葡萄人	日本人	米國人	支那人	比嶋人其他
男	一一、四二五	六、七七七	一〇、一一〇	六、六九四	四、〇四四	二、七九六
女	一〇、四一一	四、五六一	五、二〇七	五、八九四	二、〇三三	一、二一八
合計	二一、八三六	一一、三三八	一五、三一七	一二、五八八	六、〇七七	四、〇一四

尙、日本人の投票者は、所謂第二世の成長と共に、年々增加する趨勢にあります。

九、布哇の諸産業

布哇の産業は、砂糖業を第一に、近來長足の發展を示してゐる鳳梨業、次で珈琲、米作、畜産、水産の各産業があります。このうち砂糖業は其産出額に於て斷然他を拔き、主要輸出品の第一位を占め、實に布哇の經濟的生命であります。次に主要産業に就き、順を逐ふて記して見ます。

一、砂糖

布哇の砂糖業の歷史は、いまより百三十年前から初まります。それより先一七七八年に、布哇の發見者キヤプテン・クックが同島に上陸した時、既に砂糖黍(甘蔗)の生育してゐるのを目擊したといふことが傳へられてゐますが、それは勿論野生のものであつただらうと思はれます。

一八〇二年に、一支那人が白檀交易船に挽臼と釜數個を載せて來り、ラナイ島で小規模の砂糖製造を始めましたが、一收穫を利用したのみで同島を去つて終つたさうで、現在その時用ひた石臼はビショップ博物館の入口正面に保存されてあります。また一七九一年同島に在つた西牙班人ドン・フランシスコ・デ・ポーラ・マリン(Don Francisco de Paula Marin)が一八一九年に砂糖製造に成功した記錄があり、また一八二三年には伊太利人ラヴィニア(Lavinia)がホノルルで砂糖黍をボイ

板の上で石槌で碎き、その汁を銅製の釜で煮て砂糖を製造したことも知られてをります。

一八二五年には英人ジョウン・ウィルキンスン（John Wilkinson）がオアフ嶋マノア谷に百英町程の砂糖黍を植えつけ、最初の大規模の甘蔗栽植と砂糖製造を開始しましたが、翌々年（一八二七年）同人の死亡と同時に、折角の事業も中絶して終つたのであります。越えて一八三五年に至り、米國人の組織するラッド會社が、布哇國王より土地の拂下げを受けて、加哇島コロアに小耕作地を創設しましたが、これは實に布哇糖業の今日の發展をなす基礎を築いたものであります。

併し其後の布哇製糖業は、尚幾多の曲折を經て今日に至つたのは勿論のことで、このラッド會社も、最初はその規模も小さく、生産法また原始的たるを免れなかつたものの如く、同社が一八三七年に製造したその砂糖二噸を輸出したことは、實に劃期的な成功の第一歩であつたのであります。

製糖法の原始的であつた例としましては、今から六十年位前までは、マノア谷及びヌアヌ谷に、水牛又は水力を利用して運轉される粗末な木造の製糖機が隨處に見うけられたことであります。今日ではこの地方は、立派な住宅區域に變つてゐるのも、時代の推移を如實に語るものであります。

近代科學の發達は、製糖業をも機械化し、大資本事業化したのであります。今日の布哇に於ける大耕地會社の中には、製糖工場と機械器具のために、二百萬弗以上の投資をしてゐるものがあり、また製糖事業に對する全投資は、一億七千萬弗の巨額に達し、一個年に耕地竝に工場就働者に拂はれる勞銀は、二千四百萬弗に達してゐます。

尚之が生産の歴史的發展の跡を見ますと、前述の如く、一八三七年に二噸輸出された記錄を殘した以來、その生産と商業上には長期に亙つて見るべきものなく、商業的に製産が行はれ出したのは一八五〇年代に入つてからでありました。卽ち一八五六年に於ける全島の砂糖は五百四十七噸、同六〇年には五百七十二噸であつたが、翌一八六一年には一躍二倍の一、二八一噸となり、十年後の一八七一年には一萬噸臺となり、一八八七年には十萬噸臺、一八九六年には二十萬噸臺、一九〇一年には三十萬噸臺というふうに漸增を示し、一九三二、三年の兩年には遂に百萬噸を超えましたが、一九三四年には少し減つて五十五萬二千百八十七噸となつて居ります。

また五十餘年前の一八八〇年には、各耕地の就働人員五十名乃至二百名であつたのが、現在では一會社で二千名乃至三千名の從業員が見られ、全島四十五耕地の總員は實に五萬に及んでゐます。

抑も砂糖黍耕作には、最初は布哇土人のみを使用して居りましたが、これが就働者として外國移民が輸入されたのは一八五二年、時の布哇國王カメハメハ三世の時代で、支那移民二百九十三名が二回に分れて渡來しました。これが布哇への外國移民の嚆矢であります。支那移民はこの年以來、一八九八年の米布合併の時まで、合計三萬七千人に達しましたが、砂糖耕地に於ける就働者は比較的少數で、一八八〇年から一八九〇年に至る支那移民渡航の全盛時代に於て平均五千人、また最大多數の就働者を示した一八九七年ですら八千人餘に過ぎません。

これに比べると、日本人の就働者は遙かに多く、一九〇四年と一九〇八年には各三萬二千餘人に

達してゐます。併し日本人も、一九二〇年からは二萬人臺を割つて漸次減少し、一九二八年からは更に一萬人以下になりましたが、一九三三年及び四年には僅かに一萬人臺を保つて居ります。これは新渡航者の無いためと、且つは同胞第二世が勞働を厭ふことがその主因となつて居ります。

これから見ますと、比島人の砂糖黍耕地就働者の增加は、特記に値するものがあります。一九〇八年に於ける比島人の就働者は百四十一名、その次年が八十六名といふ少數でありましたが、一九一〇年からは俄然二千二百九十六名と云ふ飛躍的增加を見せ、三年後の一九一三年には更に一躍八千餘人となり、一九一九年には一萬人を超過し、一九二九年からは三萬四千人以上となり、日本人の最も多數に就働した時代よりも更に多いのであります。一九三四年に於ける布哇砂糖黍耕地就働者は、四萬六千人餘でありますが、このうち比島人は七割强、日本人は二割强、あとの一割弱がポルトガル、支那、布哇等の各人種を含んでをります。

さて布哇で栽培されてゐる甘蔗は、如何なる種類であるかと申しますと、現在十數種あるうち、最も多く栽培されてゐるのはイエロー・カレドニア種で全島耕作面積の半ばに達して居ります。その他の主なる種類は、次の如きものであります。

(一)ラハイナ　(二)H百九號(三)D一三五號(四)縞入メキシコ(五)黃色ティップ(六)D一一七號(七)ローズ・バムブー(八)H一四六號。このうちローズ・バムブーは、明治卅四年、臺灣の大日本製糖會社の今井兼次といふ人が、布哇からその苗を持ちかへつて同島に移植したのが、今日の臺灣製糖の基礎となつたものださうであります。

布哇に於て產出した粗糖及び糖蜜の輸出額を、一九二〇年以來統計によつて見ますと、次の通りであります。

年度	砂糖	糖蜜	合計輸出額
一九二〇年	一一八、九九八、八四八弗	四九一、八一五弗	一一九、四九〇、六六三弗
一九二一年	九三、六八六、一三八	六一八、八七四	九四、三〇五、〇一二
一九二二年	四五、一〇九、二五八	二〇四、一二九	四五、三一三、三八七
一九二三年	六九、五八六、四六七	二三一、六九三	六九、八一八、一六〇
一九二四年	七四、五三〇、九八三	三六五、五八五	七四、八九六、五六八
一九二五年	六四、六一三、八四九	八四八、二〇三	六五、四六二、〇五二
一九二六年	六八、七七〇、三四六	七六三、五六六	六九、五三三、九一二
一九二七年	六九、八二七、八二一	五六九、九四六	七〇、三九二、〇六七
一九二八年	八〇、〇三五、八二六	九〇〇、六三一	八〇、九三六、四五七
一九二九年	六一、九一四、五〇四	一、〇一六、二九九	六二、九三〇、八〇三
一九三〇年	五五、二三三、四六九	一、三三〇、三七八	五六、五六三、八四七
一九三一年	五七、一一九、一六四	一、一六三、六六九	五八、二八二、八三三
一九三二年	五七、五八八、五〇二	三一八、三〇三	五七、九〇六、八〇五
一九三三年	六五、四九五、一三四	二〇一、〇二二	六五、六九六、一三六

また一九三三—三四年度の世界の重要なる砂糖產出國の產額を擧げて見ると、布哇はその島嶼の

面積の小と人口の寡とを以てして、その十位内に位置してゐるを知ることが出來ます。

印度	五、〇六七、〇〇〇噸
玖馬	二、二七四、三〇七
合衆國(甘菜、甘蔗)	一、六八九、九九五
獨逸	一、四四七、三六五
比律賓	一、四一一、一一〇
露西亞及ウクライナ	一、一〇〇、〇〇〇
ボルトリコ	九九四、〇七四
佛蘭西	九三七、八一二
布哇	八五〇、一六六
日本(臺灣)	八〇三、一四三

最後に、布哇に於ける砂糖黍耕地と就働者の待遇に就て記します。砂糖黍耕地には灌漑耕地と非灌漑耕地とがあつて、灌漑耕地は一九三三年度に於て八萬百七十九英町、其收穫は六十八萬八千三百五十一噸で、一英町の平均收穫は八噸五九であります。また同年度に於ける非灌漑耕地は六萬二千九百六十五英町、其收穫は三十四萬五千三百八十八噸、一英町の平均收穫は五噸四九でありました。これで見ますと、灌漑耕地の收穫は、非灌漑耕地に比し遙かに好成績を示してをります。

尙、布哇の砂糖黍耕地勞働者の勞銀は、米國加州邊の農園勞働者程高くはありませんが、その代り、勞働賃銀の他に、家屋、水、燃料等を無料にて給與され、また本人及び家族に對する醫藥手當も無料で施され、且つ利益配當、奬勵金の給與といふやうな善い制度がありますので、寧ろ全般から見て、非常に優遇されて居ることになるのであります。

二、鳳梨

鳳梨(パインアップル)業は、現在布哇に於ける砂糖業に次ぐ大産業であります。鳳梨が布哇に渡つたのは一八一三年で、同年西班牙人ドン・フランシスコ・デ・ボーラ・マリンによつて移植されたのでありますが、その後數十年間、何人にも顧みられずにゐたのであります。

然るに一八八五年にキヤプテン・キッドエル(Captain John Kidwell)といふ人が、オアフ島のマノア谷で五英町の土地に初めて栽培し、翌年にはジヤマイカ島より同地産のスムーズ・カイエン(Smooth Cayenne)を取寄せ、耕地を十英町に增して試驗的に栽培しました。このスムーズ・カイエンは、その後種々改良を加へられ、現在では世界一の優良種と目されてをります。この品種は果實の莖が短かくて樽形をなし、スリップは極めて少く、糖分多く、色光澤及び香味も佳く、鑵詰用として理想的のものであります。布哇ではこれをヒロ・パインと呼んでゐます。

扨てキヤプテン・キッドエルは、一八八六年に友人ジョウン・エムメルス(John Emmeluth)と俱に

オアフ島ワイパフ近くのアボカアで、布哇に於ける最初の鳳梨鑵詰會社を創立して、鳳梨の鑵詰を製造しましたが、當時未だ市場に於ける商品としては問題にされませんでした。併しキッドエルが布哇鳳梨鑵詰業の先驅者としての功績は忘れることの出來ないところであります。

鳳梨生産が多少注意をひくやうになつたのは一八九七年頃からで、實にキッドエルの創業後約十年のことであります。併し猶鑵詰として多量に製造し、輸出するまでには至らず、多くは生果のまま輸出されてゐたのであります。一八九七年には十五萬七千九百廿五個、一八九八年には六萬三千七百廿七個、一八九九年には八萬三千百六十二個、金額は一八九九年に於ても一萬弗餘。他に鑵詰として輸出された金額三百餘弗に過ぎませんでした。

また鳳梨鑵詰事業に對する功勞者としては、米國の一新聞記者トーマス氏（W. P. Thomas）を擧げねばなりません。同人は布哇に渡航以來、鳳梨の栽培と其鑵詰製造に獻身的に沒頭し、一八九七年には全財産を投じて、獨力オアフ島ワヒアワに鑵詰製造所を設立し、同年其製造になる鑵詰二打入二百十五箱、其金額三百四十七弗九十仙を輸出しました。

次に、この鳳梨業を今日の隆盛に至らしめたのは、現布哇鳳梨會社々長ジェームズ・ドール氏（James D. Dole）であります。同氏は米國ボストンの人、一八九九年布哇に渡り、鳳梨事業の將來有望なるに著目し、一九〇一年會社を組織し、一九〇三年には同社最初の産出になる一、八九三箱の鑵詰を製造しました。これが三年後の一九〇六年には、その製造量三萬箱に增加しました。

布哇群島に於ける鳳梨栽培は、オアフ島が最も盛んで全收穫の約八割を占め、馬哇島これに次ぎ他は加哇、布哇の順であります。鑵詰としての産出額は、一八九五年の四百六十八箱より、一九三一年には千二百八十萬七千九百十九箱といふ尨大な數字を示しましたが、一九三二年には世界的不況の影響を蒙つて、前年度の半分以下なる五百六萬三千七百九十三箱に激減しました。併し一九三三年には七百八十萬箱となり、逐次回復の形勢にあります。

一九三二年には他の産業と同じく鳳梨業も非常な打擊をうけたのでありますが、その價格の暴落は一九一四年の五弗といふ殆ど無代に近い價格以來初めての安値で、生果一噸の相場十四弗七十七仙に過ぎませんでした。前年の一噸廿一弗七十一仙より見ると約七弗の暴落を示して居ります。

尙、布哇鑵詰業組合に加入してゐる各社の工場總投資額は千六百卅八萬千五百弗、耕作地總投資額は千三百九十五萬八千五百弗、その栽培耕地面積は八萬八千英町、收穫地面積は四萬九千三百五十六英町、工場就働者は毎年平均約五千人、耕作地就働者は約六千人、また鳳梨小作者は七百廿九名に及んでをります。

三、珈　琲

珈琲は砂糖、鳳梨に次いで、布哇農産物の第三位にあり、コナ珈琲の名はその品質の優良を以て世界に知られて居ります。コナ珈琲の名稱は、布哇島コナ地方に最も多く栽培されるところから來

たもので、品質はモッカ種の最優等のものであります。

布哇に珈琲が初めて移植されたのは、今より百十九年前、卽ち一八一七年に、砂糖黍及び鳳梨の移植者として布哇の恩人とも稱すべき西班牙ポーラ・マリンが、加哇島ハナレイに移植したのが初めてであります。越えて一八二三年に至り、マタイン氏がホノルル市近郊に小規模な耕作を試み、其翌々年（一八二五年）には、英國より派遣されたガアナア・ジョウン・ウィルキンスン（Garner John Wilkinson）は伯剌爾（ブラジル）リオ・デ・ジャネイロ地方より將來した珈琲樹を、オアフ島マノア谷に百英町耕作し、更に他の地方にもこれを移植しました。一八二七年には、また別の品種が馬尼剌から移入され、マノア谷に植えつけられましたが、これらが布哇珈琲の元祖といはれてをり、現在でも當時植えつけられた老樹が殘存してゐるとのことであります。

布哇に於ける珈琲栽培は、殆ど日本人の獨占事業でありまして、それも熊本、福岡、山口、廣島諸縣人が最も多くこれに從事して居ります。日本人以外には、キャプテン・クックとアメリカン・ファクタースの二會社がコナ地方にありますが、その耕作者とて殆ど皆日本人であります。從つて珈琲栽培者の最も多數住居するコナ地方では、特殊の珈琲村落をつくり、日本語を以て何郡、何村と區分し、各所に村長を置き、各地互に連絡をとつて居る狀態であります。因みに、コナ地方の日本人從業者は現在千三百戸に達して居ります。

併しこれら日本人の珈琲耕作地の九割は、ビショップ財團及び其他外人の私有地でありまして、日本人が完全な地上權を有してゐないのは、如何にも殘念なことであります。而して耕作地のリース權利金はどれ位かと申しますと、それは土地の肥瘦と結實期の如何で一定はしませんが、大體一英町で、上等畑が六百弗から千弗。中位のものが四、五百弗、下等が百弗から三、四百弗の相場であるといはれます。

また珈琲は通例植付後一年目から少量の收穫があり、三年目には一英町より千斤乃至千二、三百斤、四年又は五年目は收穫最も多い時で一英町千七、八百斤乃至三千斤に達するさうであります。

次に一九〇〇年からのコナ珈琲の產額とその價格とを擧げて見ます。

年度	產額	價格	一斤値段
一九〇〇年	三二一、一三九斤	四九、五五三弗	〇・一五四弗
一九〇一年	二、六三〇、一四九	三一二、一二五	〇・一一九
一九〇二年	一、二一〇、〇九八	一二六、六四四	〇・一〇五
一九〇五年	一、五四三、三六二	一八六、五八三	〇・一二一
一十一〇年	二、三五〇、五八六	二八八、四二三	〇・一二三
一九一四年	四、四三〇、七二二	六五七、八五三	〇・一四九
一九一五年	三、一九一、二七四	四八六、〇五四	〇・一五二
一九一八年	三、二〇六、二〇二	四六六、七三六	〇・一四六
一九一九年	六、八四四、八四一	一、一〇五、九一〇	〇・一六二

一九二〇年	二、六三五、六三五斤	七二一、四八一弗	〇・二七四弗
一九二五年	四、九六五、二八六	一、三一四、五九一	〇・二六五
一九二七年	六、九〇八、五〇〇	一、七九六、二一〇	〇・二七〇
一九二九年	八、六六三、三〇〇	二、一六五、八二五	〇・二五〇
一九三一年	九、八〇八、〇九五	一、一七六、九七〇	〇・一二〇
一九三四年	一〇、三八七、六二九	一、四五四、二六八	〇・一四〇

右の表によつて見ますと、年産額に於ては一九三四年が最も多く、同價格に於ては一九二九年が最高を示して居り、一斤の値段では一九二〇年の斤二七仙四であります。一九三一年は産額の多いにも拘らず、前年度より非常な安値を示し、珈琲栽培者にとり、大なる打擊を與へたのであります。

四、米　作

布哇の米耕作は、既に八十年近くの歴史を有して居ります。一八五七年米國人が本土南キヤロライナ州から種子を輸入して、播種耕作したに始まり、今日では布哇農産物中の第四位にあります。

布哇で耕作されてゐる米の品種は、所謂布哇種（前記米國より移植されたものでありませう）、日本種、支那種の三種でありまして、そのうち布哇、日本の兩種は主として布哇に於て消費され、支那種は米大陸に輸出されてをります。

布哇に於ける現在の米耕作地は、日本と同じく悉く水田であります。加哇島のハナレイは其産出の多量を以て知られて居りますが、耕作者は日本人であります。以前はオアフ島でも耕作されましたが、今は殆ど廢耕されてゐます。そして、その耕作者がいづれも日本人と支那人とであるだけ、耕作方法は純然たる東洋式により、何ら機械的設備を用ゐず、まづ苗を作り、それを水田に植えつけて居ります。

抑も布哇に於ける米作の著手者は支那人でありますが、これは移民として支那人の方が日本人より古い歴史を有つて居るからであります。日本人は支那人におくれて渡來し、支那人より後に米作に從事したのでありますが、近來は日本人でこれにたづさはるものが多くなつてゐます。

米の收穫は以前には一個年二回、二個年に五回を通常としましたが、近年は一年一回制度が多く採用されてゐます。これは一回の方が肥料の關係もあり、また收穫が多いからであります。

また近年に至つては、勞働者の不足とか勞銀の關係等で、年々耕作反別の減少を來しつつあるのは、見逃し得ざる傾向であります。一九〇五年以降の米作耕地反別の記錄を見ますと、この點が明かになります。

一九〇五年	一二、〇〇〇英町
一九一〇年	九、四二五英町
一九一九年	五、五四九英町
一九二七年	三、二二四英町

一九三四年　一、二〇〇英町

尙、一九〇五年度の收穫は三十三萬四千俵に達し、布哇米作の最全盛時代であつたのであります。その後加州米に壓倒されて、漸次衰微を來し、一九三二年度に於ける産額は三百十三萬五千斤その價格十萬千三百四十弗にすぎませんでした。

五、布哇の水産業

布哇の水産業は、その年産額約二百萬弗でありますが、これがすべて日本人の獨占事業であるのは愉快に感ぜられます。

布哇の近海で捕れる魚類の主なるものはアク(鰹)、旗魚、アヒ(鮪)、ウルア、カハラ(鰤の一種)ウラウラ、ハププ(アラ)、アクレ(鰺)、マレット(イナ)、オペル、オペルママ、サルモン、丸鰺、アホレホレ、ペケ、ホゴ、カマス、ヤガラ、サヨリネフ(鰯の一種)等で、その他章魚、海老、海龜、食用鱶、またアサリ、蛤、小鮑等の貝類があります。

布哇では以前でも、土人等の釣、投網、その他原始的な捕獲法による漁撈はありましたが、漁業らしい漁業の起つたのは明治十八年以來、多數日本移民の渡航を見てからであります。魚肉を常に食膳に供する日本人の人口增加に伴ひ、魚類の需要が增して來ましたので、自然邦人漁業家が現はれるやうになつたのであります。山口縣出身の西村龜太郎氏などは、布哇に於ける邦人漁業家の先驅者の一人であります。また明治卅二年には、布哇近海で鰹の多く捕れることを知つた紀州の中筋五郎吉氏は、內地で使用する鰹漁船、船具一切を携へて渡布しましたが、同氏は實に布哇日本人の鰹漁の鼻祖であります。同氏の新式漁法によつて捕獲數が激增し、從つて魚の値段も低下しましたので、需要者は大喜びしましたが、一方從來鰹漁で生計を營んでゐた土人の漁師連は、自分達の生活を脅かすものだと大に憤り、中筋氏暗殺を企てたとさへいはれます。

鰹漁船が不便な帆船からギヤソリン發動機船の採用を見たのは中筋氏の發案になるもので、明治四十年のことであります。最近は重油エンヂンを用ゐてゐるので、漁船の運用費は更に少くなりました。そして現在では布哇水産會社の明神丸(二〇〇馬力)、同社の大和丸(一六〇馬力)、ホノルル漁業會社の春丸(一六〇馬力)などといふ、强力なエンヂンを裝備した大型漁船が出漁して居ります。

布哇で漁業に從事して居る邦人は約一千名あります。それでも未だ布哇に於ける需要を充たし得ず、米大陸や日本から魚類を輸入して居る狀態であります。併し初代の邦人漁業家は既に老齡となつて、漸次漁業界から引退しつつありますが、これが後繼者たるべき第二世には、漁業從事希望者がいたつて少く、これがため布哇の教育界では、ハイスクールに漁業科を設けて、第二世に必要な漁業知識を授け、出來るだけこの方面に彼等の就業を勸め、永年第一世によつて確立された有望な水産業を繼續させやうと試みて居ります。

尙、水産業のうちに含まれるものとして、鰹節、製鹽、鰹罐詰、蒲鉾等があります。鰹節は品質甚

だよく、紀州の熊野節に匹敵するといはれます。その年産額は廿萬封度、價格約四萬五千弗であります。製鹽業――これは日本人及び支那人の經營にかかり、年産額三千噸内外、價格約四萬弗であります。鰹罐詰は品質頗る優良で、特に米大陸に於て大に賞用され、需要も少くありません。併し現在のところでは、鰹の捕獲量の少ないため、充分その需要を充たし得ない狀態にありますが、今後この方面の發展は　大に期すべきものがあらうかと思はれます。

蒲鉾は、その製造者も需要者も俱に日本人でありまして、年産額は廿萬弗内外であります。鱒、牡蠣の養殖も既に計畫されて居りますから、近き將來に於て、同島の主要な水産物として現はれることでありませう。

一〇、布哇の貿易

布哇の貿易は對米大陸のものがその大部分を占め、その他の諸國間とのものは甚だ小額であります。本島の主要産出品たる砂糖、鳳梨、珈琲が矢張り輸出品の重要なるものでありまして、これらは大部分米大陸に向けて輸出され、その殘りの一部分が歐洲や東洋諸國に輸出されて居ります。

一方輸入品の種目を見ますと、その大部分は同島の主要産出品たる砂糖、鳳梨、珈琲の栽培、製造に要する材料と布哇住民の食糧及び一般生活用品であります。これら輸入品の大部分即ち農具、食糧、木材及び建築用具等は、殆ど米國本土より購入するものでありまして、外國より輸入されるものといへば、肥料及び種々の日本品の他に特に擧ぐべきものはありません。

對米貿易に就て見ますと、一九三四年度に於ては、米國本土よりの輸入額は六一、九六二、六六二弗、同國への輸出額は九一、五九八、〇四〇弗で、輸出超過約二千七百六十萬弗を示して居ります。米國本土よりの輸入品中百萬弗以上の物品を擧ぐれば、次の通りであります。

種目	一九三三年	一九三四年
石鹼、化粧品	一、一一七、三六六弗	一、一五四、七二三弗
鐵、鋼鐵品	四、一五〇、八三一	八、〇六六、一〇七
穀物及製品	三、一七八、〇五九	四、三九七、四一八

電氣機具類	二、〇四四、二七六弗	一、九七六、一五一弗
野菜及製品	一、三一九、四三四	一、四五一、六九三
工業機械	一、五〇九、三八一	一、九五四、八三七
精製石油及製品	六、九九七、三七九	三、四六七、四〇八
木綿織品	二、三四〇、六五六	二、四七九、三二五
自動車其他車輛	二、四六九、四八五	二、七五四、八四六
材木及製品	一、三五四、四四九	一、七八八、五七六
紙類及製品	一、四九二、九九一	二、一八三、四〇二
肥料	一、七一六、三八五	一、九二五、九九九
肉類	二、一三一、六二七	二、二六五、八一一
ゴム及製品	一、一〇七、九六八	一、一九〇、七七一
牛乳製品	一、四八六、八九四	一、四二一、〇四一
飼料類	一、三四三、二七七	一、四六七、四九八
果物及鑵詰	一、〇五九、六五四	一、〇〇九、〇三二

次に、布哇より米國本土への輸出品中、主なるものは、次の通りであります。

	一九三三年	一九三四年
粗製糖	五八、一四二、二七二弗	五八、三九八、九四四弗
鳳梨鑵詰	一七、九二九、二四四	二六、六四五、八四四
精製糖	二、三五四、五九一	一、六九五、〇七四
珈琲	七〇七、八〇〇	六六二、三七一
糖蜜	二六八、九二八	二九四、四三〇
魚類及鑵詰	二三六、四九〇	三六一、五四九
紙及製品	二九四、七〇一	三七一、八三五

右一九三四年度諸輸出品のうち、砂糖類三種を合して六千萬弗で、對米總輸出額の六割五分を占めて居るのを見ても、布哇の糖業が如何に同島の經濟的生命の中心をなしてゐるかが明かになります。また同島第二の產業である鳳梨鑵詰の輸出額は三割弱にあたります。

尙、米國本土以外の對外貿易は、前述の如く甚だ振ひません。これを一九三三年の統計によつて比較して見ますと、次のやうであります。

一九三三年度輸出入總額	一五九、四四五、六八三弗
對米國本土總額	一三四、〇八〇、四一〇
對米國以外總額	二五、三六五、二七三

卽ち米國本土以外の外國との輸出入總額は對米國本土の分と比較すれば、僅かにその一割二分に過ぎません。而して米國本土以外の對外貿易に於て、輸入は日本が筆頭で、獨逸、英領印度、加奈陀がこれに次ぎ、輸出にあつては比律賓が第一位を占め、次は英國、日本、加奈陀、香港がこれに次いでゐます。

次に、米國以外の大輸入國である日本と布哇との輸出入關係を、一九三四年度の統計によつて、まづ日本よりの輸入品には如何なる品目があるかを見ませう。

品目	數量	金額(圓)
吳服類	四、二五一函	八〇一、八九一
鑵詰類	八七、三七八函	九四一、六四一
乾魚	一五、八五四函	三八六、四七七
醬油	八六、〇四二樽	三八五、六四五
履物類	六、四四三函	二七二、四八八
豆類	一一、三八五袋	七三、四二七
食料油	一七、四二六函	一七〇、一八一
漬物類	二三、四六二樽	二〇一、一二七
乾野菜	三、〇七五函	八九、九九三
茶	二、八七〇函	八二、九一六
豆粕	三六、二五九個	六八、五一九
日本米	一九、二六八袋	二〇五、六九五
肥料	六二、二九三俵	一八四、五四九
セメント	六六、一五三袋	五八、六五〇
莚	六、八二三丸	三七、二三一
陶磁器	一、三一三函	三〇、三二六
化粧品類	六三二函	四三、四一九
アーセニック	五、一九二袋	四一、一五七
味噌	一六、八五三樽	六五、六三四
日本酒	一〇、四〇五函	二二九、九七四
麥酒	四八六函	四、二九五
其他	一一九、四二九個	二、五四五、五七二
合計金額		六、九三〇、八〇七

即ち前年一九三三年の七百十萬三千圓に比較しまするとと、十七萬二千圓の減少を示してをりますが、之等の輸入品目を見ましても、日本人を四割近く包擁する布哇に於て、如何に日本品が多く需要されてをるか、啻に食料品のみでなく、吳服類の八十萬圓、履物類の二十七萬二千圓に達して居るのを見ても、布哇に於ける在留邦人の日常生活が、如何に內地のそれに接近してゐるかが判明するでありませう。まだ日布間の貿易は、過去十二年間に如何なる狀態を辿つて來たか、御參考までに、その輸出入額を併記して置くこととします。

年次	日本より布哇へ(輸入)	布哇より日本へ(輸出)	輸出入合計
一九二一年	六、七〇五、六七九弗	一三二、七〇一弗	六、八三八、三八〇弗
一九二二年	三、八四三、九七二	六二、一一四	三、九〇六、〇八六
一九二三年	二、六一八、九九一	九六、九〇一	二、七一五、八九二

一九二四年	二、五三五、三六四弗	一九八、五八四弗	二、七三三、九四八弗	
一九二五年	二、七一七、四四三	一二五、九四七	二、八四三、三九〇	
一九二六年	二、九七七、四三八	一一二、五九一	三、〇九〇、〇二九	
一九二七年	三、〇三七、〇八二	一二八、二七三	三、四五三、三五五	
一九二八年	三、二七八、七八二	一八六、二四六	三、四六五、〇二八	
一九二九年	三、〇九五、九五二	一四六、一〇二	三、二四二、〇五四	
一九三〇年	三、一二九、三九八	八七、三二〇	三、二一六、七一八	
一九三一年	二、七七一、五七二	一四四、二〇七	三、一二九、三九八	
一九三二年	一、九一二、五六九	一七六、五五七	二、〇八九、一二六	

右の表に依りますと、日本より布哇への輸入額は、布哇より日本への輸出額に比し、桁違ひの多額に達してゐることが明かになります。今後に於きましても、日本よりの輸入が更に増加すべきは疑ふべくもありません。

また最近八個年の布哇群島の全輸出入總額は次の通りであります。

	輸入	輸出	輸出入總計
一九二六年	八六、五一七、一八九弗	一〇〇、一四五、〇二〇弗	一八六、六六二、二〇九弗
一九二七年	八九、〇三七、四八〇	一一一、五〇四、〇四五	二〇〇、五四一、五二五
一九二八年	八八、一八四、八五三	一一九、四七九、八三五	二〇七、六六四、六八八
一九二九年	九二、四一四、九三四	一〇八、四三九、一〇三	二〇〇、八五四、〇三七
一九三〇年	九一、二一三、〇四九	一〇五、九一五、七八三	一九七、一二八、八三二
一九三一年	八二、三九二、三八六	一〇六、〇九八、九七五	一八八、四九一、三六一
一九三二年	六三、五五六、〇二二	八三、四四八、二九六	一四七、〇〇四、三一八
一九三三年	六三、一二七、九八七	九四、三一七、六九六	一五七、四四五、六八三

一一、布哇の果物と植物

熱帶圈内にある布哇群島には、美味な熱帶果物が多種類産出されます。鳳梨の世界的産地として有名なことは、既に産業の項で述べましたが、玆では鳳梨以外の代表的果物に就て記します。

一、果　物

布哇産の果物類の主なるものはバナナ、パパイヤ、マンゴウ、オヒア、アリゲーター・ペーア、グヮヴァ、ブレッド・フルーツ等であります。その他の果物としては苺、葡萄、レモン、蜜柑、日本の枇杷、桃等があります。

布哇のバナナはその種類多く、野生もので普通布哇バナナと呼ばれてゐるものにも、廿五種乃至五十種も異種があるといはれてゐます。この野生のものは、昔ポリネシア人が移住して來た時に移植したものであらうといはれます。

以前、布哇島のハマクアに於て發見されたハマクア・バナナの原産地は、葡萄牙領マデイラ島であります。また一八五五年、タヒチ島より移植したムサカベンツシは、俗にチャイニーズ・バナナと云ひ、長さは短かいが、實大きく、味は佳良であります。またラーゴ種と共に墨西哥より移入されたレッド・スパニシュ種は、印度ではラム・ケアと稱されるもので、その實は甚だ美味であります。この種の樹幹は成長頗る盛んで廿四呎以上に達する。また十九世紀の中頃、一支那人によつて紹介されたアップル・バナナと稱する品種は、ブラジリアンに似て居り、堅い皮を有してゐます。このブラジリアンは爪哇が原産地で、別にピサング・メッチとも呼ばれてゐます。

また十九世紀の末に、スノーといふ人が南洋群島中のクサイ島から、同産地のバナナを移植しましたが、これはクサイ・バナナと稱され、料理などに用ゐられます。斯く幾十種もある布哇のバナナのうちに、風味もよく、取扱ひも簡單で、現在輸出品の一つに數へられて居るのはジャマイカ種のもので、これは一九〇三年にヒロ市のフィリップ・ベック氏が同島より移植したものであります。

バナナはオアフ島が主要産地で、同島でも特にワイアルア、エワ、マノア、カリヒ、裏オアフ島が中心産地となつてゐます。布哇島ではオーラナ、コナ地方が中心産地であります。最もさかんなオアフ島に於けるバナナ園の面積は六百廿六英町、布哇島が約八十英町、加哇島は四十八英町であります。バナナは生のまま米大陸に輸出され、其年額約廿萬弗でありますが、最近は中米地方産出のものに壓倒されて、輸出額の減少を見つつあるのは惜しむべきであります。

パパイヤはわが臺灣を初め、琉球、小笠原島にも産し、臺灣では木瓜又は蕃木瓜と呼ばれてゐるもの、果肉は厚く柔軟、多汁で、橙黃色又は淡紅橙色を帶び、爽快なる甘味と一種の芳香を有し、且つ蛋白消化酵素であるペプシンを多量に含有して居りますので、食後の果物として最も適してゐ

ます。このパパイヤは生食の他に、野菜代用として煮て食し、また漬物ともなります。煮て食するものは綠果を用ゐますが、味は馬鈴薯に似てゐます。漬物にも同樣綠果を用ゐます。

但しこのパパイヤは長く保存することが出來ないので、輸出品たることは出來ませんが、核からは强壯劑が製され、また藥品パパイン錠の製造原料ともなり、種は驅蟲劑として、またその熟果の液汁は各種の皮膚病に外用して特効がありますので、非常に有名な果物として珍重されてゐます。布哇ではまた、パパイヤの實は養豚の飼料として利用され、養豚業者のなかには、自らパパイヤ畑をもつて、養豚の資に供してゐる有樣であります。全く萬能果物の感があります。尙、この果物の原產地は熱帶南亞米利加であります。

マンゴウは布哇の果物のなかでも、美味の點では第一位にあります。種類は數百種に及ぶさうでありますが、布哇で現にあるものは四、五十種であります。そのなかにもアルボーン、マンゴバ、トタバリの三種が最も美味を稱されてゐます。マンゴウは前のパパイヤと異なり、一箇月以上も冷藏することが出來ますので、輸出に適して居ります。生果として使用される他に、砂糖漬等に加工して賞味されます。

マンゴウは常綠喬木で、高さ十間以上、幹圍十數尺に達するものがあります。實は鈴なりになつて著き、果皮は頗る硬靱であります。內部には一個の大きな核があり、その周圍には强靱な纖維がありますが、この纖維の少いのが良種であります。この皮の硬いのと、肉に纖維があるので、食べ方がなかなかむづかしく、食卓で上品に食べるには相當の熟練を要します。

マンゴウは果樹として尊ばれてゐると同時に、その生育が甚だ速い爲めに、材木としても重用され、樹皮は染料又は鞣皮料に使用されます。また樹皮からはアラビヤ護謨がとれます。

オヒアは布哇名で、マウンテン・アップルのことであります。この果實は布哇固有のもので、その樹は濕地を好みますので、降雨の多い森林地帶又は河流に沿ふて繁茂して居ります。結實が年二回あるのも珍らしく、白又は眞紅の小形の林檎のやうな實を結ぶのでこの名があります。併しその味は林檎とは全然違つて居ります。果肉は水分に富み、味は淡白であります。面白いことは、白い花の咲くものには、白色の外皮の實が出來、紅色の花のものには、紅色の皮の實が出來ることであります。オヒアの樹はまた木質が堅牢で美しく、光澤があるので、諸器具、室內の裝飾材又は床板として珍重されてゐます。

アリゲーター・ペーアはその形、瓢簞形の西洋梨に似てゐますが、その外皮が恰も鰐の皮に酷似してゐるためにこの名があります。原名はアヴォカードと稱し、マンゴウと同じく、布哇全島到るところに見られます。生果は米大陸に輸出され、年々產額漸增の傾向を示して居ります。

アリゲーター・ペーアの品種は數十種に及び、果肉のなかに筋のないのが良種とされてゐます。專門家の說に依りますと、ペア一個の榮養價は、鷄卵一個に相當するさうであります。生食の他、サラダなどにも使用されますが、値段は比較的高く、良品は一個廿五仙にも達し、普通で十仙位で

あります。

グァヴァの品種は百三十種以上あるといはれますが、布哇で現に見られるのは數種に過ぎません。その風味によつてレモン・グァヴァ、ストロベリー・グァヴァの名があります。これらが布哇にある主なる種類であります。この果樹は山野に自然に生じてゐる灌木で、實は熟すると黄色を帶びます。生食は殆どされず、主としてジエリやジヤムに製造されます。グァヴァ・ジエリはその一種獨特の香氣と風味とによつて人に悦ばれて居ります。

ブレッド・フルーツ、所謂麵麭の實でありますが、布哇語ではウルと稱します。麵麭の實はボイと同樣にポリネシア人初め熱帶土人の常食でありますから、この人種は他の島に移る時、必ずこの樹を携へて行つて播植させて居ります。布哇にこの果物の移入されたのも、昔彼等が來島の際移植したものであらうといはれてゐます。果實の内部には、白色の麵麭質の果肉があり、よく熟したものは黄色を帶び、一種特有の芳香を放ちます。この果肉を厚切にして燒いて食べると、薩摩薯のやうな味がします。土人はまたこれを搗いてボイとして食用にしますが、普通用ゐられるタロ芋のボイよりは、遙か上等なものとされてゐます。

分析表によりますと、布哇産の麵麭の實は、全重量の約八割は食べられる部分で、その一割五分は糖分、五分は炭水化物であります。熱帶地方の土人には、この樹が二三本あれば、一人一年中の食に充分であるといはれます。食べ方は、或は生食、或は煮或は燒いて用ゐられますが、最も普通

な調理法は蒸燒法であります。布哇では土人の他に、歐米人もまた好んで食用に供して居ります。

ウルの樹は桑科に屬し、その生育頗る速く、高さは普通三十尺、稀に五十尺に達するものもあつて、樹容甚だ優美であります。その種類また數十種ありますが、果實には無核のものと、有核のものとの二種があり、無論無核のものが優良種とされてゐます。土人はこの樹の葉で物を磨き、また樹皮は藥用に供せられます。樹皮から出る粘液狀のものを、土人は黐に利用して居ります。

二、植　物

常夏の布哇の自然美が、世界的に有名なことは周知のところでありますが、その風景美を更に飾るものは、珍しい植物と、山野庭園を彩る花卉の美であります。

熱帶地特有の椰子の樹は、布哇島内到る處多く見られます。殊に大王椰子の堂々たる偉容は、旅人の目に忘れられない印象を殘します。珍植物としては、大きな秋田蕗の葉を思はせるアペ・アペ(Ape-ape 學名 Gunnera petaloides)——これは現在は死火山ハレアカラの山腹に繁茂してゐる植物で、葉の直徑の大なるは六尺に達します。また、森をなす樹羊齒、これまた巨大なもので葉の長さ一丈に及ぶかと思はれるものがあります。また、樹齡千年を經たかとも見える周圍三丈もあるコア(Koa)の巨樹が隨處にありますが、昔の土人等は、石器でこの巨木の中を刳つて、大洋を航する丸木舟を造つたものと想像されます。

また土人が桶か樽の代用にする大きな瓢簞のやうなカラバシ(Calabash)といふのがあります。この實の大小のものから、種々の家庭道具を造つて居りますが、その大きなものは直徑三呎に及ぶものがあります。日本最初の遣米使節の殘した布哇見聞記のなかに、このカラバシの實を以てつくつた桶風のものに物を入れて、天平棒で擔いで運搬してゐる土人達の風俗を、物珍しげに書いたものがあります。

また土人がタロと呼ぶ葉の色彩の美しいカラヂアムや、ヒマラヤ山の雪草と共に、世界の珍草となつてゐる馬哇島の死火山ハレアカラの火口近くに多く見出される銀劒草(Silver Sword Grass)などもあります。また到る處の庭園や垣に咲亂れてゐて日本の木槿にあたるハイビスカスは布哇の代表花(Territorial Flower)であります。この花には三百以上の異種がありますが、馬哇ビユテイ、布哇ビユテイなどと、夫々島名を冠してゐるものもあります。またクロトンとかアカリハなどいふ日本の葉鷄頭のやうな色斑のある灌木の花があります。

布哇は四季初夏のやうな、餘り變化のない惠まれた氣候の土地ではありますが、矢張り一年中に亙りますと、四季それぞれを代表する花があります。例へば、春の季節には茶のやうな白い花をつけるグァヴァ、小さな白い五裂の單瓣花を夥しくつける珈琲、山野に咲くこれも小さな五瓣の山椒に似て香り高きランタナの花、海岸地方の溫度高き處に褪黃色の花をつけるアルガァノバ(Algarnoba—土語でキアヱ Kiawe といふ)、また紫茉莉科に屬する九重葛(Bougainvillea Spectabilis)の

美しい花(この植物はブラジルが原産地で、花の外部にある苞葉は膨大にして、赤、樺、紫紅などの濃艶な色彩を呈し、頗る美觀であります)。更に、俗にいふ山林檎(土語のオヒア Ohia)が、濕氣の多い丘や庭園に、眞紅又は雪白の花をつける等、春は矢張り花の季節、花爛漫と咲き亂れて布哇の春を飾るのであります。

布哇の夏の花はまた、この土地の季節的情景に一入の興を添へるものがあります。ワイキキの月夜の美が最も稱へられるこの季節は、亦殆ど凡有る布哇の美味な果實が、その獨特の風味を以て人の食慾を唆る季節であります。この他夏の花としては、何れも荳科に屬する桃花(Pink Shower)菫雨(Violet Shower)、金雨花(Golden Shower)があります。それぞれその名にふさはしい色の花が房狀をなして咲きます。中にも金雨花は鬱金色に美しく燃え、また鳳凰花(Poinciana regia)は燃えたつ焰のやうな紅で、いかにも熱帶地方の花らしいところを見せます。六瓣の白い花の花心に淡黃色を覗かせて、馥郁たる香氣を放つのはプルメリアであります。この植物の葉は枇杷のそれに酷似して居ります。また仙人掌科に屬してゐて珍しいのは夜間花(Night Blooming Cereus)、清涼な夜氣に高い香氣を發散させる夜香花、これらは何れも布哇の夏の花の代表的なものであります。

秋から冬にかけては、さすがの布哇も花をつける植物は餘程鮮くなり、日本から移し植ゑられた菊をはじめ、葉猩々又はポインセチア(Poince tia)とよばれる濶葉灌木で、眞紅な花だか葉だか區別はつかぬが、とにかく美しい色彩で、籬や庭園を彩るものが主なものであります。

一二、布哇の發見

布哇群島はもとサンドヰッチ群島(Sandwitch Islands)の名稱で知られて居たものでありますが、これは一七七八年一月、加哇島に辿り著き、同群島發見の端緒を作つた英國の航海探檢家キャプテン・クック(Captain Cook)が、時の英國海軍卿サンドヰッチ伯爵の名を冠したことに由來します。

現在の布哇群島の名稱は、群島中最大の面積を有する布哇島から來てゐるのでありますが、抑もこのハワイといふ島名の起源は、西曆六世紀頃ハワイ・ロアといふ一人のポリネシア人が、同島への最初の來住者であつたといふ口碑に基くものだといはれます。また一說に據りますと、本島最初の移住者は、今より約五百年前カヌーで本島に渡つたサモア群島中のサヴイ島人で、その土著以來漸次人口繁殖して今日に至つたものだと傳へられてゐます。その後の史實によつて見ますと、後者サヴイ島人といふ渡來者のなかに、上記のハワイ・ロアが居つたのではないかと思はれます。

現在では布哇群島の發見者は、普通キャプテン・クックといふことになつて居り、布哇の歷史もクックの發見から初めてありますが、數年前に、發見者は既に別にあつたことが判りました。卽ち西班牙バルセロナに保存してあつた古文書によりますと、一五二七年十月に、西班牙の航海者リカルド・カルデロン(Ricardo Calderon)が、サンタ・マリア號に乘じて同島に回航してこれを發見しましたので、その存在は當時一部歐洲にも知られてゐたといはれます。

カルデロンの殘した航海日誌に據りますと、彼はその年太平洋の北方を航海中、數個より成る群島を發見しましたが、其中の一島は當時大爆發の最中で、辛じて上陸して見ると、土人の皮膚は褐色で、唯腰部を蔽ふのみの眞裸であつたさうであります。カルデロン等は身長七呎もある巨大な酋長に會ひ、釘、ビスケット、ナイフ三挺、古劍二振等を贈つて、水、野菜、果物、豚等を求めました處、僅かにココナッツと馬鈴薯を送るといふ返事を得ましたが、その夜急に風の都合で、これらの物品を得ずして、其儘出帆したさうであります。このカルデロンの布哇發見は、また他方の記錄によつて、一五二七年に墨西哥の征服者たる西班牙のコルテス將軍が、三隻の船を太平洋に送つて布哇を發見せしめたとあるのと照合して、カルデロンはこのコルテス將軍派遣の船舶の統率者であつたのではないかと想像されます。

更にカルデロンの發見より以前に、一二七〇年頃(日本では鎌倉幕府時代の中期)には、日本の漁船がマウイ島の北岸に漂著し、船長他男女二名が土人に救はれたといふ口碑も、土人間に傳はつて居りますが、この日本漁船の漂著は、未だ確かな史實の據るべきものがありませんから、姑く措くこととします。

處で、この布哇發見者たる榮譽を擔つてゐるキャプテン・クックが、遂に同島土人の手で非業の最期を遂げたことは、餘りにも悲痛な事件であります。今左にその實情を略記して見ます。

クックはソサイテイ群島(Society Islands)の一島から、帆船レゾリユーション(Resolution)とデスカヴリ(Discovery)の二隻を率へて太平洋を北上し、アラスカの北に廻つて、大西洋に出る水路を發見しようとその途に上りましたが、途中偶然この布哇群島を發見したのであります。船隊はオアフ島を遙かに眺め乍ら進航し、一七七八年(安永七年)一月十八日加哇島のワイメア(Waimea)に上陸し、此處に數日滯在後出帆し、更にニイハウ島(Niihau)に立寄り、暫く休息の後同年二月二日再び北上の途につきました。併し遂に目的を達せずに引返し、今度は布哇島に辿りつきました。

クック一行が同島に著いて上陸すると、土人等は初めクックをロノ大神(Goi Lono)として崇めました。といふのは、土人等は僧侶達から、その昔身を匿されたこの神様が、今に浮島に乘つて戻つて來ると教へられてゐたので、彼等は大船に乘つて渡來したクック一行を、ロノ大神の御歸還と信じたのであります。

そこでクック一行は土人に優遇され、ナポーポー(Napoopoo)に在る寺院に住所を與へられて、滯在しました。然るにクック部下の船員等は、土人に對して傲慢無禮の上に、薪や船の修繕に材木が必要となると、寺院を環らす柵や神殿に安置する偶像まで持出して燃したり、使用するといふ亂暴を働いたものです。そのうちクックの部下の一人が病死しますと、土人等は彼等も自分達と同じく死ぬ者であるといふ事を知り、神として尊敬する念を失つて終ひました。その上、數十日間に亙つて食料の供給を强制されたので、これでは自分達は饑餓に迫るかも知れぬと心配し出し、クック一行に對する憎惡と敵視とを露骨に見せて來ました。

さういふ氣配はクック一行にも分つたものか、間もなく出帆しましたが、其時に大砲數發を放つて土人等を威赫したものださうです。然るにそれより數日後、暴風のために船は大破損を蒙つて已むなく同島へ避難して來ましたが、島人等數千は一齊に蜂起して、クック一行を襲擊し、クック初め船員一同を慘殺して了ひました。そして島人等は、彼の死體の肉を骨から離して犬に喰はせたといふことであります。

現在この航海家の偉勳を傳へる記念碑は、布哇島のコナ・ケアラケクア灣頭(Kona Kealakekua)に建つて居ります。尙同處附近の小區域は、ハワイから英國政府に寄贈したもので、英國の所領とも申すべきもの、この悲運な探檢航海家の偉業をめぐる國際的美談と申すべきものでありませう。

一三、布哇の歴史

クックの布哇發見當時、土著島人等は各島に部落を構へ、各々酋長を戴いて、互に勢力爭ひから抗爭を事とし、所謂群雄割據の狀態を以て、原始的生活を營んでゐたのであります。其後漸次歐米人の來訪頻繁となり、種々の文明の利器と動植物とが移入されましたが、同時に島嶼には曾て見られなかつた文明人特有の傳染病も齎らされるに至つたのは是非もありません。

斯くして島民も追々文化の光に浴して行つた譯でありますが、一七八二年には、布哇島コハラの酋長の子として生れたカメハメハ（Kamehameha）は、遂に他の七島を征服平定して、玆にカメハメハ王朝樹立の覇業を成し遂げ、首府をオアフ島のホノルルに奠めたのであります。

布哇王朝は一七八二年（吾邦の天明二年。米國獨立の前年）カメハメハが布哇群島に君臨してより、一八九三年リリオカラニ女王（Queen Liliuokalani）の退位迄、八世百十一年續きました。王朝時代となつて、特記すべきことは、カメハメハ二世の朝一八二〇年に米國傳道會社がハイラム・ブリガム（Hiram Brigham）を團長とする宣教師團を派遣し、基督教を布教し、醫藥を施し、出版を創め、農業を教ゆる等、土民の文化向上に偉大な貢獻をしたことであります。この團員の中に、婦人宣教師も加はつて居ましたが、これが布哇を訪れた最初の白婦人であつたのであります。

カメハメハ三世（在位一八三三—五四年）は、信教の自由を許し、立憲政治を布き、獨立布哇王國を世界に公認せしめました。同四世王（在位一八五四—一八六三年）は行政に於ける代議制を完成しました。別項に述べる萬延元年の日本最初の遣米使節一行の護送と航海術練習のために北米合衆國に渡航した軍艦咸臨丸と、右使節一行の乘船した米艦ポウハッタンがホノルルに寄港した際、前者の乘組幹部と使節一行とが謁見したのは、實にこのカメハメハ四世であつたのです。

カメハメハ五世（在位一八六三—七二年）は農産業を奬勵し、農園勞働者として外國人卽ち東洋人輸入の道を拓きました。日本最初の布哇移住民百五十餘名が渡航したのは、この王の治世でありました。王はまた學校、病院等を創設し、島民の進歩のために尠らず力を盡されたのであります。

カラカウア王（在位一八七四—一八九一年）は米布互惠條約を締結して、米大陸の砂糖輸入稅を撤廢せしめて、布哇糖業の將來を安全の域に置き、また水道、電氣、鐵道、電話等の文明の利器を輸入して施設し、群島をして益々文化の光に浴せしめました。ハワイ王朝歴代の君主中、最も英明であり、また王朝の前後を通じて最も隆盛の時代であつたやうに思はれます。

一八九一年、カラカウア王の後を承けて王位に卽いた同王の王妹リリオカラニ（在位一八九一—一八九三年）は王權の衰微をいたく歎かれ、卽位の翌年（一八九二年）從來の憲法に大改正を加へ、以て王權の振興を圖りましたが、何分政治外交の經驗に乏しく、且つ四圍の事情に通じなかつたので、却つて革命を招致する因を作り、遂に革命派に迫られて、已むなく退位するに至つたのは、洵

に氣の毒の次第と申さねばなりません。

在來の憲法に對する大改正といふのは、要するに市民の跋扈牽制策がその主眼であつたので、市民として參政權を有する歐米よりの移住者達は、猛烈なる反對運動を起したのであります。卽ち先づ殆ど全部が外國人である市民大會が催され、その結果、保安會といふものが設立され、從來の王政を廢し、假政府の樹立を決議いたしました。

この報に接しられたリリオカラニ女王は、王朝歴代君主の畫像を前にして、一族重臣を集めて善後對策に就て協議しましたが、何ら良策を得ず、議もまた纒らず、徒らに群臣喧騒を極むる中にも、二三氣慨ある士があつて憤然蹶起し、民間の同志と相結んで王黨を組織し、假政府軍に對して多少の抵抗を試みたものの、兵力の微弱と大勢の赴くところ如何とも爲す能はず、却つて米國軍艦ボストンの陸戰隊百六十名のため一溜りもなく彈壓され、忽ち潰走四散して終ひました。

玆に於て女王は「米國全權公使ジョウン・エル・スチーヴン氏は米國水兵をホノルルに上陸せしめ、且つ之によりて假政府を保護すべしと宣言せるが、余はその兵力に對抗する能はざるの故を以て、玆に服從す」といふ、洵に悲愴な布告文の公表を最後として、百十一年間布哇群島に君臨したカメハメハ王家は遂に斷絶したのであります。而してホノルルのキング街に在る王宮は、假政府の手によつて占據され、廢王リリオカラニ女王は近親と俱に、直ちに街端れの小やかな民家に移られました。これ實に一八九三年（明治二十六年）一月十七日のことであります。

假政府では米國の保護を受けるといふ理由の下に、二月一日より舊王宮であつた政廳の屋上には米國國旗を揭揚し、同廳及び米國公使館、同領事館は、いづれも米國兵によつて護衛せらるるに至りました。

當時布哇群島には二萬五千といふ多數の日本居留民が居りましたので、革命勃發と共に日本政府は在留同胞保護のために軍艦浪速を同地に派遣し、同艦は二月二十二日ホノルルに入港しました。同艦の艦長は、當時海軍大佐であつた故東郷元帥でありましたが、東郷浪速艦長は恰も既に桑港よりホノルルに入港して居つた練習艦金剛と協力して、完全に在留民保護の任を盡し、帝國の威信を遺憾なく發揚し得たのであります。その時の東郷浪速艦長の沈著豪膽なる活躍振りは、ハワイ王朝滅亡史の一頁を飾るもので、同時に、武將東郷の一生に於ける華々しい一挿話であります。

次で一八九四年七月四日、布哇共和國が建てられ、サンフォード・ドール氏（Sanford B. Dole）を初代大統領に選擧し、立憲共和政治が布かれました。この布哇共和國成立の日が、北米合衆國獨立の日と同日であつたのも奇緣といはねばなりません。間もなく布哇共和國は世界の各國より獨立國として承認されるに至りました。

やがて北米合衆國と合併の議が起り、布哇政府では熱心にこれを希望しましたが、米國大統領クリーヴランドがこれを肯ぜざる上に、米國議會に於ても合併に贊同するもの全議員の三分の二に達せず、合併のことは直に實現を見るに至りませんでした。然るに一八九七年マッキンレイ大統領の

就任と共に、改めて米國上下に米布併合論が起りました。而してその翌一八九八年、米西戰爭起るや、布哇政府は比律賓に遠征する米國陸海軍のために、その領土の自由使用を許すなど、甚大な好意を見せました爲め、米國に於ても同群島が軍事上重要なるを認め、同年七月、北米合衆國上下兩議院に於て布哇の併合を可決し、同年八月十二日、ホノルルに於て米布併合式を擧行しました。茲に於て布哇はその獨立を失ひ、米國の版圖に歸したのでありますが、米國大統領が正式にハワイ縣知事を任命し、縣政が布かれるに至つたのは一九〇〇年（明治三十三年）のことであります。

一四、布哇と日本

現在の布哇群島の總人口三十七萬九千弱（一九三四年の調査推定）のうち、日本人は十四萬八千二十四人で、實に全人口の三割九分强を占めて居ります。この日本人のうち約十萬は日系米國市民でありまして、他は非市民であります。日本人以外の主要人種の人口は、比律賓人が最も多く五萬六千七百餘　支那人が二萬六千九百餘、葡萄牙人以外の白人が總數四萬五千八百餘、葡萄牙人が二萬九千二百餘、布哇人が二萬一千餘、白人と布哇人の混血兒が一萬八千餘、亞細亞人と布哇人との混血兒が一萬六千二百餘、朝鮮人六千六百餘といふ狀態であります。この人口の點からのみ見ましても、日本と布哇とが如何に密接な關係にあるかが想到されます。

斯くの如く布哇に於ける日本人の人口が甚だ多く、恰も日本人の布哇のやうな奇觀を呈して居りますが、これといふは、往年日本移民が盛んに同島に渡航したためで、布哇はこの點で、近世日本民族の海外發展史上、非常に重要な地位を占めて居るのであります。

抑も我が日本民族は、古來から殆ど皆日本の土地以外の近接諸國からの移住者より成つて居りまして、他國のやうに、進んで海外へ移住者を出すといふやうなことは、國情と更にその國民性からして餘り見られなかつた處であります。併し日本人の海外移住は、戰國時代以後からぽつぽつ歴史

に見え出して來たやうであります。その顯著なものとしては、古くは暹羅の古アユーチヤンに於ける山田長政時代前後の移住民や、德川時代に於ける比律賓諸島又は蘭領印度への渡航を擧げることが出來ますが、暹羅への場合は、偶然性を多分に帶びて居りましたし、後者の場合にあつては、當時の嚴重な異教禁止に由來する所謂切支丹迫害のために、日本人の教徒達が難を海外に避けたといつた方が寧ろ至當であつて、双方とも嚴格な意味での海外植民とは稱し難いのであります。

尤も英吉利の清教徒が、信仰自由の新天地を求めてアメリカ大陸に渡り、茲に北米合衆國建設の基を築き、また、猶太人系の歐洲諸國民が夫等の國々に於ける彼等に對する迫害壓制を免れるために、これまた米國に渡り、茲に移住民として大きな發展を遂げたやうな例もありますが、日本人は其國民性の然らしむるためか、比律賓、爪哇あたりでも、餘り發展を遂げず、今日ではさうした先驅者達の殘れる墓石に、彼等の壯圖を偲ぶに過ぎないのは、今日の日本國情より考へて、洵に千歲の恨事と言はざるを得ないのであります。これに反してハワイへの日本人の渡航は、その初期からして、陰に陽に政府保護のもとに、堂々と行はれたのでありますから、日本人の布哇渡航の歷史は、やがて近世日本の海外植民史の初頁を飾るものであります。

日本人の布哇に於ける移住とその發展とに就て記述する前に、その前後に溯つて、日布兩國間の史的關係に就て、項を更めて記すこととします。

一五、日本人の布哇漂著史

西暦十三世紀の中葉に、既に日本の漁船が布哇に漂著した形跡のあつたことは、前に述べた通りでありますが、明かに史實上に現はれた日布交渉の最古のものは、西暦一八〇四年、我朝光格天皇の文化元年、德川第十一代將軍家齊の時、仙臺領寒風澤の漁夫津太夫一行の布哇漂著事件であります。布哇ではこの時、カメハメハ王朝の創建者カメハメハ一世の治世でありました。尙、この年には魯西亞の使節レザノフが長崎に來つて交易を請ふことなどあり、日本と外國との關係は、この頃より漸く多端となつて來たことも、特に附け加へて置きます。

次で仁孝帝の天保年間に入りますと、同三年（一八三二年）にオアフ島海岸に日本船漂著したるを初めとし、同五年（一八三四年）には尾張の漁夫三名が漂著し、同十年（一八三九年）には長者丸の漂著あり、同十二年（一八四一年）には更に頻繁な接觸がありましたが、孰れも我同胞漂著の歷史を繰返したものであります。卽ち遠州の漁夫等、それから土佐の漁夫萬次郎等の漂著であります。

尙、或る書物には、天保十二年に攝津西の宮の永住丸といふ船が、同じく布哇に難破漂著したかのやうに書いてありますが、同船乘組の土佐の船頭初太郎の口述を基として記した阿州侯の儒者前川文の『亞墨新話』に據りますと、永住丸の漂著地は布哇でなく、大洋に漂流中西班牙船に救助さ

れ、低加州のサン・ロカ岬の邊に上陸させられたことが判明します。

× × ×

次に邦人の布哇漂著の歴史を進めるに先だち、これ迄の漂流者中、その後、近世日本の歴史的人物となつた土佐の漁夫萬次郎・後の中濱萬次郎の漂流譚に就て少し詳しく述べて置きます。

天保十二年正月五日、土佐國幡多郡中ノ濱の漁夫萬次郎は、主人筋の傳藏及び五右衞門、重助、寅右衞門の五人と、僅か三升餘の米と薪炭を少し積んだ小さな鰹船で漁に出たのであります。然るに二三日すると、天候俄に惡變し、物凄い大暴風となり、そのうち船は黑瀨川（黑潮卽ち日本海流のこと）の急流に乘上げ、東へ東へと流され、八日目に遂に一無人島に漂著しました。此處で一同は阿呆鳥を捕へて食し、夜は岩窟に籠り、五人で抱き合つて暖をとりながら眠りました。かくして六月四日米國の捕鯨船ハウランド號（船長ホワイトフィールド氏）に救はれたのであります。同船は途中漁をしながら、同年十一月ホノルルに入港しました。この邦人漁夫五名のうち、四名は同地に上陸させられて、土人の家に預けられ、萬次郎だけが船長に連れられて米國本土へ渡りました。

その後彼は船長と共に再び捕鯨船に乘り込み、大西洋からアフリカ沿岸、印度洋迄も出獵しました。その間相當英語を覺え、天保十四年（一八四三年）夏マッサチユーセッツ州なる船長の家に入つて、家事の手傳をなす傍ら讀書、美術、測量の學を勉强しました。然るに或日のこと、もとハウランド號の船員アーレンデッシといふ者が、今度フランクリン號の船長として遠洋漁業に出掛けるから、是非萬次郎を雇入れたい旨申出ました。これにはホワイトフィールド氏も萬次郎も早速承諾し、弘化四年（一八四七年）フランクリン號に乘込み、ニユウベツドフォド港を出帆しました。

同漁業船はそれより大西洋から印度洋に出でニユウギニア、グアムに立寄り、其年の四月には小笠原島附近に著し、更に逆航して琉球附近に到り、更にまた針路を北にとつて奥州沖に到り、それより布哇群島のオアフ島ホノルルに達し、此處で萬次郎は上陸して、同地に居殘れる邦人の一人寅右衞門に再會しました。それより再びフランクリン號にてグアム、マニラを經て印度洋に出で、喜望峰を迂回して、弘化五年（一八四八年）一年振りでマッサチユーセッツ州に歸り、再びホワイトフィールド家の人となつたのであります。

やがて萬次郎は、當時カリフォルニアに於ける金鑛發見の報に刺戟されて、同地方に赴く決心をし、嘉永二年（一八四九年）十月、フェア・ヘヴンを出發して、翌年五月桑港に到著し、それより川蒸汽にてサクラメント河を溯つて、目的のオスレハ金鑛區に著きました。

此處に在つて砂金採收に從ふこと約百日で、六百弗程の金を得たので、これを旅費として日本へ歸ることとし、桑港より便船を求めて、その年の七月に布哇に著きました。そこで傳藏、寅右衞門、五右衞門の三人と日本歸國のことを謀り、故國への便船を待つてゐましたが、嘉永三年（一八五〇年）十一月に、米國船サラボイド號の支那へ赴く途中、ホノルルに寄港したるを幸ひとし、萬次郎は同船長より便乘の許可を得、傳藏、五右衞門の兩人と俱に、同年十一月廿五日ホノルルを發し、

嘉永四年（一八五一年）一月四日、琉球摩文仁間切の沖に到著。豫て用意の小艇アドベンチュアに乘じて上陸しました。一行三名は同年の七月卅日、迎ひに來た鹿兒島藩士等に伴はれて鹿兒島城下に著し、藩主島津齊彬公より月餘に亙りてアメリカの政治、軍事、宗教、商業の諸般に就て質問を受けました。次で長崎に送られましたが、純然たる漂流者であつて、切支丹とは何等の關係もないことが判明しましたので、嘉永五年（一八五二年）六月廿五日生國土佐の藩士に伴はれて、十一年目に生れ故郷へ歸つたのであります。この時、天保十二年十五歳の少年萬次郎は、廿六歳の立派な若者となつてゐたのでありますが、故郷の家へ歸つて見ますと、佛壇に祭つてあつた位牌は既に古びてゐるのを見て、三人の者はいづれも泣かぬは無かつたさうであります。

斯くして萬次郎は一時領土外居住禁止を申渡されましたが、翌嘉永六年（一八五三年）の黑船來の大騒ぎのなかで、俄かに外國通を捜して採用するといふので、遂に高知藩の一漁夫萬次郎は、同年破格の扱ひを以て江戸に召出され、故郷中の濱に因んで中濱を以て姓となし、祿高三百石を下しおかれて、德川直參にとり立てられました。

旗本中濱萬次郎は、その後、豆州韮山の代官で、有名な反射爐發明家江川太郎左衞門の幕僚となつて、航海、測量、造船の新知識を獻言して大に重用され、後安政年間には、軍艦操練所の教官に任命されました。

越えて萬延元年（一八六〇年）、江戸條約の條約書交換のために北米合衆國に赴く使節一行の護衞艦咸臨丸の航海長となり、渡米の後は使節と行を俱にし、得意の英語を以て、使節の外交的折衝にあたり、大に功をたてたのであります。

歸朝後は、幕府や薩藩の命により、軍艦操縱、航海術等を教授し、その門よりは明治初期の日本海軍に名を馳せた多くの名士を輩出しました。明治政府となつてからは、再び土佐より召出され、開成黌（帝國大學の前身）に英語の教鞭をとつて居られました。

これを以て見ましても一漁夫萬次郎の漂流は、近代日本の發展とも密接な關係がありますので、特に彼等一行の漂流に就て詳記した次第であります。

× × ×

天保年間より降つて、孝明天皇の御治世の弘化四年（一八四七年、德川十二代將軍家慶の時代）には、米國の捕鯨船フランセス・ヘンリエッタ號が太平洋漂流中の日本人四名を救助して、布哇に上陸させました。また嘉永三年（一八五〇年）には、紀州日高の天壽丸の漂著あり、同年米國捕鯨船オークランド號が、日本の船頭を助けて來たり、また米國本土に漂著した播州の船頭を救助したオークランド號の寄港等があつて、この年は天保十二年と同樣、漂著事件が續出しました。

一六、日本最初の遣米使節の布哇訪問

以上は日本と布哇との關係が、未だ難破船の漂著乃至漂流者の上陸による交渉の時代でありましたが、萬延元年（一八六〇年）に至つて、初めて兩國間に國際的な關係が生じたのであります。即ち同年三月（舊曆二月）、新見豐前守を正使とする日本最初の遣米使節を載せた米國軍艦ポウハッタン號が、桑港に向ふ途中、炭水積載のためホノルルに寄港し、使節一行は時の布哇國王カメハメハ四世に謁見を仰せつけられたことと、同年五月同使節護送と航海術練習とを兼て米國へ航した我國の軍艦咸臨丸が、米國より歸國の途次（往航には桑港へ直航）ホノルルに立寄つたことであります。

米艦ポウハッタン號（下田に於て吉田松蔭が乘船せんとして失敗した軍艦です。噸數二千四百十五噸、長さ二百五十呎、幅四十五呎、深さ二十六呎、大砲十一門、乘組員四百名）は、萬延元年一月十九日（舊曆）神奈川出帆、途中逆風に遭つて難航海を續け、意外に時日を費し、炭水も缺乏を告げるにいたつたので、桑港直航の豫定を變更し、針路を變へてホノルル寄港のことに致しました。同艦は航海廿六日の後、二月十四日（舊曆）に同港へ到著しました。日本使節の一行は生れて初めて外國の土地を踏んだこととて、見るもの聞くもの何一つとして珍らしからぬはなく、殊に二月とは言へ、常夏の國だけあつて「青葉涼しく茂たるは、時鳥も鳴もやせてか」と思はれたとは、副使村垣淡路守範正が、その日記のなかに述べた感懷であります。また文藻豐かな同人は、異鄕の曉に、故國に變らぬ鷄の聲を聞いて

鳥が鳴く東もをなじほのぼのと
　ほのるる島の春の曙

と歌つてをりますが、ホノルルを敷島の歌の題材としたのは、恐らくこの村垣淡路守を以て嚆矢とするところでありませう。

次に當時のホノルルの光景を、同使節の手記『遣米使日記』から引用して見ることとします。

「けふもテーロル案内して市中を遊歩せよとすゝむれば、人々打つれて歩行よりぞ行、南の海岸寄に、王の居所有、塀なども破れてさびしき山寺の如く、本堂めきたるもの二宇ばかりみゆ。海岸より山手まで一里ばかりも人家あれど、商人の軒つゞきたるは二筋三筋の通りにて、よき家は煉瓦石（瓦の厚きものなり）にて造りたる二階家なり。外は板屋多し。商人は皆歐羅巴、米利堅の者なり。人民過半は西洋風俗なり。土人は男女とも色黑く、女は髪の毛長く黑し。長き丸形の櫛をさし、毛を卷て、前より見れば櫛のかどばかり見えて、つのの有ように思はる。實に畫ける鬼女の如し。沓もはかず、麁末の衣をまとひて、麁暴の人物なればいやしめられたり。瓢の大なる者を二つに切て荷ひ、魚野菜など賣歩行なり。市店ここかしこ立寄みれば、異なるさまなれど、今は神奈川の横濱を見ればあやしとも思はず……」

文中テーロルとあるは、ポウハッタン號の乘組士官で、日本使節接待係として、始終渝らぬ深切を以て、一行の便宜のために斡旋した人であります。また、ハワイ王宮の叙述を見ますと、當時王威が追々行はれなくなり、實權は漸く歐米人の手に收められて行きつつあつた有樣が、それとなく窺はれます。

尙、使節の一行が國王カメハメハ四世に謁見した時の模樣を、同日記に就て見ますと——

「正面に王西面していささかの臺の上に立たり。黑羅紗の筒袖にて、米の風俗にかはらねど、金のたすきめきたるものを肩にかけたり。側に通辯官（蘭語）一人侍立、左右衞士十二三有、內四人奇麗なる花鎗のごとき飾せしものを持、北の方には士官と覺敷ものならびにミニストル等陪從。正興おのれ忠順、王の前に進み默禮すれば、各の姓名を米のミニストル披露、王みづからこたへ、はからずも日本使節に面會して恭よし、はた碇泊中何事も不自由なるべしなど、こまやかに述ければ、名村五八郎通辯したり。」

右のうち正興といふのは正使新見豐前守を指し、忠順とあるは鑒察小栗豐後守を指すのであります。王に次いで、使節一行に拜謁を賜つた王妃についての印象は、次の如く書いてあります。

「名はエンマ、年頃二十四五、容顏色は黑しといへども品格おのづからあり。兩肩をあらはし、薄ものを纏ひ、乳のほとりをかくし、腰の方より末は美敷錦の袴ようのものをまとひ、首には連たる玉の飾ありて、生るあみだ佛かとうたかふばかり、左右侍女數人妾と覺敷ものみゆ、中には少年妾色の者も有、侍女等は歐羅巴人と見へて、色白く、髮毛赤色多し、風俗は妃と同じ……」

ハワイ王妃の風貌を「生たる阿彌陀佛」との見立は、蓋し適評であつただらうと思はれます。尙その日の國王及び王妃への謁見を終へて客舍に歸還後、その日の感想を次のやうに記してをります。

「つくづくけふの有樣を考ふるに海外の事情はたまさか漂流人の咄しを聞書せるもの見し斗りなりけるに、かゝる禮節もて國王妃に接待するは、實に夢路をたどるばかり也。左ればたわむれに、

わた津海の龍の宮ともいはまほし
うつし繪に見し浦島がさま

王は金のたすき樣のものをかけて飾有、妃は前に言る如くあみだ佛のごとく、さればまたざれ歌を

御亭主はたすき掛なりおくさんは
大はだぬぎで珍客に逢ふ

などとりどり評して笑を催し、日頃のうさも忘れてふしぬ……」（下略）

一七、明治時代と日本移民の渡航

扨て萬延元年の日本使節の布哇訪問以後の日本と布哇との關係は、明治年代に入つて、日本移民の渡航により更に密接なものとなつて來ました。

抑も日本人が團體移民として布哇に渡航したのは一八六八年(明治元年)であります。これは布哇の砂糖黍耕地に、多數の勞働者を必要としたために、江戸駐在の布哇公使より我が政府に、日本人勞働者の渡航を懇請したからであります。由來布哇の砂糖黍耕作には、同島の土人のみを使つて居たのですが、どうも能率が上らない。それで一八五二年に至つて、時の國王カメハメハ三世は、支那人勞働者の輸入を計畫され、同年二百九十三名の支那人が二回に分れて渡航就働しました。

日本移民の渡航は、この支那人移民に後れること十六年であつたのです。布哇公使の申込みを受けたものの、何分當時日本の國内狀態は御維新前の混亂時代でありましたから、これに應ずるにしても、容易なことではなく、政府當局で肝入するなどいふ處ではなかつたのであります。

明治元年の日本は、二月に江戸城明渡があり、三月十四日には明治天皇五個條の御誓文を發布あらせられ、四月には德川第十五代將軍慶喜公が蟄居され、五月には上野の山に立籠つた彰義隊との戰爭があり、七月に入つて江戸は東京となり、九月八日に初めて明治と改元されたのでありますから、この布哇の移民の申込のあつた時は、正確にいへば慶應四年であつたのであります。

而も申込のあつた時分は、横濱はまだ幕府の直轄に屬し、鍋島侯が守護職として港を固めて居たものですから、海外渡航の事は劫々八釜しかつたのであります。そこで横濱の木村半兵衞といふ人が卒先して萬事その衝にあたり、ともかく第一回の布哇移民を纒めることに成功しました。一行は男子百四十三名、婦人九名、子供一名、計百五十三名でありました。一行は英國帆船サイオト號に乘込み、舊曆四月廿四日午後二時、半兵衞の支給した印絆纒に股引、兵古帶に饅頭笠携帶、男はみなチョン髷といふ異樣な扮裝(いでたち)であつたのであります。

現在、郵船會社の桑港航路の優秀快速船によると、僅か八晝夜しか要しない横濱ホノルル間の航程を、これまた三十五日もかかつて漸く新曆の五月一日、とにかく無事ホノルル沖に到著しました。布哇國王は一行の勞を犒らひ、鹽鮭一樽を贈りましたが、一同これには大喜びしたさうであります。この航海中に二人を除く他は、悉く大切なチョン髷を切落しましたが、その殘りの二人も上陸後二日目に、四圍の狀況のため、已むなく不承々々これを切落したさうであります。

布哇政府は是等移民の輸送費用全部を負擔し、且つ上陸就働の上は、一人當り一個月四弗の給料を拂ふ約束であつたのです。そして布哇では三年契約で、砂糖黍耕地に働くといふことになつてゐたのですが、中には不良分子の無賴漢も少くなく、賭博は打つ、喧嘩はする、全く手に了へなかつたのであります。また中には、渡航早々歸國したがる者も出て來るといふ有樣でした。

處で、一行渡布の翌年即ち明治二年に、布哇で日本人が雇主に虐待されてゐるといふ報知が、眞疑はともかく、日本へ傳はりました。旁々日本政府では、出稼人達が到底三年の契約を完全に履行し得ないものと察して居りましたので、契約期間の切れる一年前（一八六九年、カメハメハ五世治下）、吾政府は上野景範氏を布哇移民調査委員に任命して彼地に派遣しました。上野氏がハワイに渡つて事情を調査すると、別に虐待された様子はないが、皆の意嚮をきくと、歸國したいといふものが大分ある。そこで歸りたい者だけ五十餘名を伴つて歸朝しました。

當時後に殘つた人達は、移民としては比較的成功し、或者は土人カナカ族と結婚したものもありました。何れも所謂明治元年者として知られ、後來者の在留人間に、古老として非常に尊敬されてゐました。一九二七年の五月に、この元年者を記念するために、ホノルルに記念碑が建てられました。同年頃には元年者の生存者がまだ四名もゐたやうで、名の分つてゐる人は石井仙太郎、小澤、棚川半造の諸氏でありましたが、今日ではどうなつてゐるか判りません。是等の人々のうち、石井仙太郎翁は昭和三年には九十六歳で、同年今上陛下御即位大典を拜觀のため、六十一年ぶりで歸朝されてゐます。

尙、布哇へ最初の移民が渡航した翌年（明治二年）、米國本土へも最初の移民が渡航して居ります。目的地はカリフォルニアで、矢張契約移民であつたらしく、一行三十八名（契約者は四十名の筈ですが、實際上陸したものは三十八名だけであつたのです）は、歸化獨逸人スネール（日本名は松井武兵衞、妻女は日本人）に引率され、米國郵船チヤイナ號によつて同年二月と十月の二回に渡米、加州プラザヴィルに上陸しました。この移民中に、妙齡の身を以て異邦の土となつた「おけい」といふ少女のあつたことが、近年大分著聞されて居ることは御承知の通りであります。この渡米移民のことは、布哇移民と對照させるため、一寸玆に記した次第であります。

越えて明治四年（一八七一年）には、日本と布哇國との間に日布修交條約が成立調印され、翌五年には布哇カメハメハ五世の大觀兵式が擧行され、日本からは特使杉孫七郎氏の一行が參列致しました。此頃に至つて、日布兩國の關係が愈々密接になつて來たことは、明治八年十一月（一八七五年）日本政府がディックスン氏（J. B. Dickson）を帝國領事心得に任命し、ホノルルに駐在せしめた一事によつても明かであります。翌明治九年には、軍艦筑波が同港に寄港しましたが、これは實に咸臨丸以來初めての帝國軍艦の布哇訪問でありました。

明治十年には前記外國人の代理領事が廢されて、新たにブルーワー氏（J. D. Brewer）が貿易事務官代理に任ぜられましたが、これは三年後カッカー氏（J. O. Cucker）がその後任者となりました。

明治十四年（一八八一年）に至り、時の布哇國王カラカウアは世界御漫遊の途次、侍從武官ジャッド大佐（Colonel C. H. Judd）、アームストロング中佐（M.N. Armstrong）その他を伴ふて三月四日御來朝になりました。當時宮城は御造營中にて、明治天皇は赤坂離宮に在せられました。我皇室では離宮內の延遼館を布哇王御一行の御宿處と定められ、當時十五歳で在せられた山階宮定麿王（後

の元帥海軍大將東伏見宮依仁親王）は屢々王を御訪問遊ばされ、お話相手になられました。カラカウア王は山階宮の端嚴なる御容姿と英明の御資性とに深く御心服されたと申します。而して一夜、王は延遼館より御微行にて赤坂離宮へ御參向になり、明治天皇と種々御内談なさいました折に、日本の一皇族を王姪の配にお迎へして、布哇の王位を繼承して頂きたいとのお話もあつたと洩れ承つてをります。併し、我が皇室令には、斯樣な御結婚は嚴禁してあるといふ理由で、同年十一月、式部官長崎省吾氏を布哇に遣され、布哇王室の御申込を婉曲にお斷りになつたと傳へられてあります。尙このカラカウアは非常に英邁な君主であられましたが、この時より十年後（明治廿四年）の一月廿一日に米國桑港の御客舍で、五十五で薨ぜられたことは洵に哀悼の念に堪へません。

扨てこの年（明治十四年）布哇群島に於ける日本人の總數は百十六名で、その數に於て、明治元年より減少して居りますのは、前述の通り、翌明治二年に一部の歸國者があり、且つその後の渡航者も寥寥たるもので、一向增加を見なかつたからであります。

明治十六年（一八八三年）には、日本軍艦龍攘がホノルルに寄港し、翌年帝國領事館の設置を見、中村治助氏が最初の領事として赴任しました。同領事館は次いで其翌年一八八五年總領事館に昇格し、初代總領事には安藤太郎氏が就任しました。

明治十四年以後、一時中止されてゐた日本移民の渡航が復活されましたが、これは大の親日主義であられたカラカウア王が、支那人勞働者の輸入を禁じ、日本人移入策をとられた結果で、毎年相當人數が渡航して居りました。この布哇國王の日本移民招致策に就ては、明治十四年三月十五日東京御滯留中、布哇政府の外相ハリス（C. C. Harris）に宛てられた御親書に明示してある處であります。

この日本移民の渡航取締の必要より、明治十八年（一八八五年）布哇政府代表アーキン氏（Arwin）と日本代表井上馨（當時の外務卿）との間に、日布通商移民に關する條約が締結され、この結果、條約に依る第一回の官約移民の渡航を見ました。船は東京丸で、移民九百五十六名は同年一月廿八日布哇に到著しました。日布條約によるこの官約移民の渡航は、この後約十年間繼續され、明治廿七年日清戰爭の開戰と共に廢されましたが、當社の三池丸は第二十六回の回航船として、また最後の官約移民輸送船として、千五百二十五名の移民を運びました。これで見ますと、官約移民は契約以來毎年平均二回以上の輸送を行ひ、合計男女二萬九千百三十九名の移民を送つたのであります。而して、この年までに、布哇在留邦人の故國への送金額は約二百萬弗に及んださうであります。

當時の移民は所謂出稼人と申し、男子百人に對し女子廿五人といふ割合で、女の方が非常に少なかつたのであります。月給は大抵十五弗、三ケ年契約の下に渡航して居りました。その人達が肌身離さず持つてゐた地方縣知事の告諭書には「三年間辛抱して働き、成るたけ多くの金を溜めて國へ歸へれ」とあります。後年日本移民が到る處で排斥されるに至つた理由は、他に種々の原因もありませうが、初めに政府がこの移民政策の出發點を根本的に誤まり、飽くまで彼等に眼前の利益にのみ奔る出稼人根性を染みこませ、海外に於ける永住を奬勵し、有終の成果を獲得することを勸めな

かつたこと等が、その大原因をなしたものと思はれます。

官約移民は汎く日本國中に募られたのでありますが、これらの移民の出身地は、主として廣島、山口、新潟などの縣人が多かつたのであります。かく多くの移民を出した縣のうち、廣島縣の知事が、明治廿六年同縣出身の移民に與へた告諭を次に掲げます。

「廣島縣民布哇國出稼者に告ぐ、茲に出稼者は最愛なる父母妻子に離れ三千里の波濤を踰え遠く彼の國に赴くものにして其の目的は皆金錢を儲蓄し他日故郷に歸り安穩に世を渡らんとするに外ならず今此金錢を得んと欲せば專ら品行を方正に身體を健康にし日本の臣民たることを忘れず能く彼の國の規則を遵守せよ若し之れに反して職業を務めず法則を守らず尚も利慾の爲めに無賴の徒に加はり不良の行を爲すことあらば辛苦して得たる金錢は忽ち消盡して遂に飢餓に迫り進退維谷の場合に臨んで後悔臍を嚙むとも豈及ばんや依て今出稼者の爲に最注意すべき事柄を左に掲げたれば日夜之れを心肝に銘じて忘るることなく以て能く三年の勞働を爲して富を致し解約の期至らば必ず鄕里に歸るべし行け各自愛せよ

明治廿六年十月三日　廣島縣知事從三位勳二等　鍋島幹

一、日本帝國の臣民たる事を忘れず恥を海外に貽す可らず

一、雇主に對しては常に契約を守り信實を以て仕ふべし苟も浮薄の行爲あるべからず

一、同業者中は親子兄弟と心得相扶持し決して喧嘩等を爲す可らず

一、賭博は布哇國に於ても禁制なれば決して之を爲す可らず

一、飲酒は精神を弛め稼業を怠り惡事を誘引するの基なれば愼みて之れを用ふ可らず

一、金錢は常に大切に取扱ひ其の預入又は鄕里へ送方等總て監督官に尋ね合せ其の指揮に從ふべし決して輕忽に爲す可らず

官約移民渡航廢止に先だつ明治廿六年(一八九三年)には、布哇ヒロ在留日本人同盟會が、參政權獲得問題に關して、布哇政府に建白書を提示したことがあります。當時參政權を有したものは、大多數在留歐米人であつて、アジア人種はその特典に浴してゐなかつたものですから、日本人はこれに憤起し、人種的差別撤廢の第一聲を擧げたものでありまして、當時の在留民の一部に、斯うした民族的自負自覺を有してゐたものがあつたことは、想見するだに愉快に堪へません。

尚、前記官約移民の廢止された明治廿七年頃から、ホノルルに日本人の無賴漢が跋扈して、善良な在留同胞を少からず惱ましたものです。かういふ現象は、米國本土に於ける在留日本人の間にも諸方にあつたやうに聞えてゐます。

官約移民の制が廢止された後は、直ちに民間移民輸送會社が起つてこれに代りました。卽ち廣島移民會社、熊本移民會社、森岡移民會社、日本移民會社、東京移民會社、小倉商會等がこれで、所謂自由移民の輸送を大々的に開始しました。而して是等移民會社が如何に巨利を博したかは、官約

移民中止後、須臾にして大小同業會社が四十餘も出來たのを見ても察せられます。とにかく明治二十七年(一八九四年)より同三十六年(一九〇三年)迄の約十年間に、約四萬人の移民が、是等私營會社の手によつて渡航して居ります。

當時日本政府は移民保護法を設けて、海外渡航をさかんに奬勵しましたので、移住民數は年毎に增加し、會社は是等移民に渡航費其他を貸與し、彼地に上陸就働後は、其所得金より多額の金員を辨償せしめたのであります。一方移民の激增に伴ひ、布哇の砂糖及び珈琲栽培者は、賃銀安き日本勞働者を多數使役して、これまた莫大な利益を擧げたのであります。

如斯、民間移民會社は政府保護の下に、競ふて移民輸送に從事しましたが、その間明治三十年(一八九七年)に日本移民の上陸拒絶事件が起り、遂に日布談判となり、米布合併を前に物情騷然たる布哇へ、在留邦人保護のために派遣された浪速艦に秋山外務省參事官が乘じて談判に赴くといふ由々敷い問題となりましたが、事件は翌年布哇政府より我國へ償金十五萬圓を支拂ふことによつて無事解決しました。

この年(一八九七年)に、布哇共和國が北米合衆國に、合併されたことは、布哇の歴史の項に於て述べた通りであります。因みに、時の外務大臣大隈重信侯は、米布兩國の併合などは、到底實現さるべきものでないといふ風に考へて居られたさうであります。

この米布合併は、一方に於て布哇渡航の日本移民の上に大影響を及ぼしました。それは布哇に縣制實施の結果、米國移民法がこの群島にも自然適用されるに至り、契約勞働者の同島上陸が禁止されたためであります。從つて渡航移民の大半はこの契約勞働者でありましたから、その輸送に從事してゐた民間移民會社は自然と衰微し、相次いで倒れるに至つたのであります。

この時代の前後から、日本の海外移民の北米又は南米に向ふものが增加して參りました。明治三十八年(一九〇五年)頃よりは、布哇在留民にして米國本土に轉航するものが多くなり、それがまた希哇に於ける彼等の風俗生活をその儘彼地に於て行ひましたので、これが遂に米國の排日家に、少くとも日本移民排斥の口實の一つを與へるに至つたのは、甚だ遺憾に堪へぬところであります。而して明治四十年(一九〇七年)には、米國大統領がこの日本人の轉航禁止令を發布しましたので、布哇日本人の米大陸への轉航は茲にその跡を斷つに至りました。

米國のこの新禁止令の發布に鑑み、我が政府では翌明治四十年二月、布哇への新移民の渡航を禁じました。この布哇渡航の禁止された年に於ける在留同胞は約七萬でありましたが、いま明治元年以來の布哇在留同胞の人口消長を見ますと次の如くであります。

明治　元年	(一八六八年)	一五五人
十四年	(一八八四年)	一一六
廿三年	(一八九〇年)	一二、三六〇
廿九年	(一八九六年)	二二、三二九
卅三年	(一九〇〇年)	六一、一一五

大正　二年（一九一三年）	八三、一〇〇人
六年（一九一七年）	一〇二、四七九
十年（一九二一年）	一一三、三九九
十五年（一九二六年）	一二九、九〇一
昭和　五年（一九三〇年）	一三九、九〇三
六年（一九三一年）	一四三、七五四
七年（一九三二年）	一四六、一八九
八年（一九三三年）	一四六、九九〇
九年（一九三四年）	一四八、〇二四

尚、昭和八年に於ける主要各島別在留日本人數は、次の通りであります。

ホノルル市	五三、六九五人
オアフ島（ホノルル市を除く）	二四、六九三
布哇島	三六、八五二
馬哇島	二一、九三九
加哇島	一五、二六一
モロカイ、ラナイ、ニイハウ、カホオラヱ諸島	三、一七四

布哇案内（終）

日本郵船株式會社

本社及船客切符發賣所（Yusen）東京市丸ノ内郵船ビルディング　電話丸ノ内（三）五五二一

横濱支店（Yusen）横濱市海岸通三丁目九番地　電話本局（三）八九三一

神戸支店（Yusen）神戸市海岸通一丁目一〇番地　電話三宮（一）六八二〇

大阪支店（Yusen）大阪市西區川口町二六番地　電話西（自）三三（至）八五

大阪船客切符發賣所（Yusen）大阪市東區備後町二丁目五八番地　電話本町（二）六六四五

名古屋支店（Yusen）名古屋市中區天王崎町四番地　電話（自）一一（至）七一三

門司支店（Yusen）門司市淺橋通一番地　電話四二・四三・八三

下關船客切符發賣所　下關市岬之町（國際通運支店）

長崎支店（Yusen）長崎市常盤町四番地　電話（自）二九（至）九五〇二

上海支店（Yusen）31, The Bund, Shanghai

香港支店（Yusen）8, Connaught Road, Hongkong

新嘉坡支店（Yusen）16, Raffles Place, Singapore

古倫母代理店（Nippons）Carson & Co., Colombo.

坡西土代理店（Nippon）Worms & Co., Port Said.

ナポリ代理店（Nippon）Di Luggo, Wood & Co., 41/43 Via Agostino Depretis, Naples

馬耳塞代理店（Nippon）A. V. Fenton & Co., 8, La Canebière, Marseilles.

倫敦支店（Yusenkai）88, Leadenhall St., London, E. C. 3.

リヴプール事務所（Yusenkai）India Bldgs., Water Street, Liverpool.

紐育支店（Yusen）25, Broadway, New York.

シカゴ事務所（Yusen）40, N. Dearborn St., Chicago, Ill.

桑港支店（Yusen）551, Market Street, San Francisco, Calif.

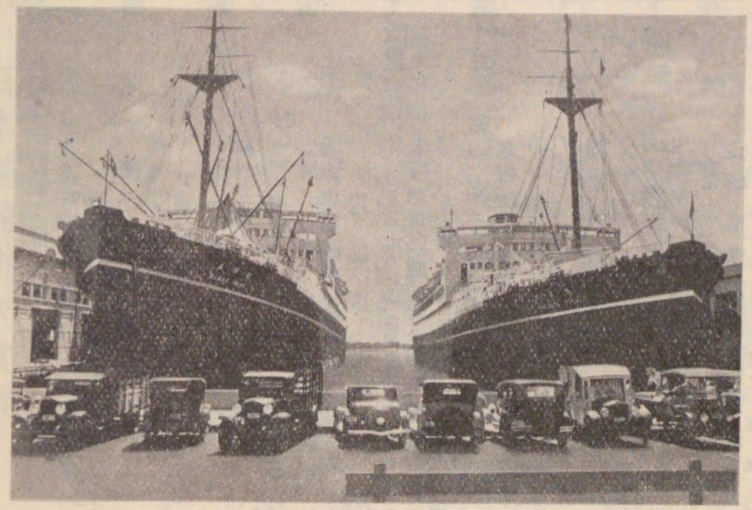
ポートランド代理店（Powlmac）Powell Shipping Co., Portland, Ore.

シアトル支店（Yusen）404, Union St., Seattle, Wash.

羅府事務所（Yusen）518, West Sixth Street, Los Angeles, Calif.

ホノルル出張所（Yusen）753, Bishop St., Honolulu.

（括弧内の文字は歐文電報宛名）



ホノルル碇泊中の淺間丸と龍田丸

主要客船航路と就航路

桑港線（ホノルル經由、桑港、羅府行）……二週一回
（龍田丸、淺間丸、秩父丸、大洋丸）

シアトル線（晩香坡、シアトル直行）……二週一回
（氷川丸、日枝丸、平安丸）

歐洲線（蘇士經由ナポリ、馬耳塞、倫敦行）…二週一回
（照國丸、靖國丸、伏見丸、諏訪丸、筥崎丸、箱根丸、榛名丸、白山丸、香取丸、鹿島丸）

南米西岸線（布哇、桑港、羅府經由、墨西哥、秘露、智利行）……月一回
（平洋丸、樂洋丸、墨洋丸）

濠洲線（マニラ、ダバオ經由濠洲行）……月一回
（熱田丸、賀茂丸、北野丸）

孟買線（新嘉坡、古倫母經由）……月一回
（銀洋丸、安洋丸、丹後丸）

日華聯絡線（神戸、長崎、上海間聯絡）……毎四日目
（長崎丸、上海丸）

昭和九年九月十日印刷
昭和九年九月十五日發行
昭和十一年四月廿三日再版發行

『布哇案内』
非賣品

本案内は御申込次第御送附致します

不許複製

日本郵船株式會社

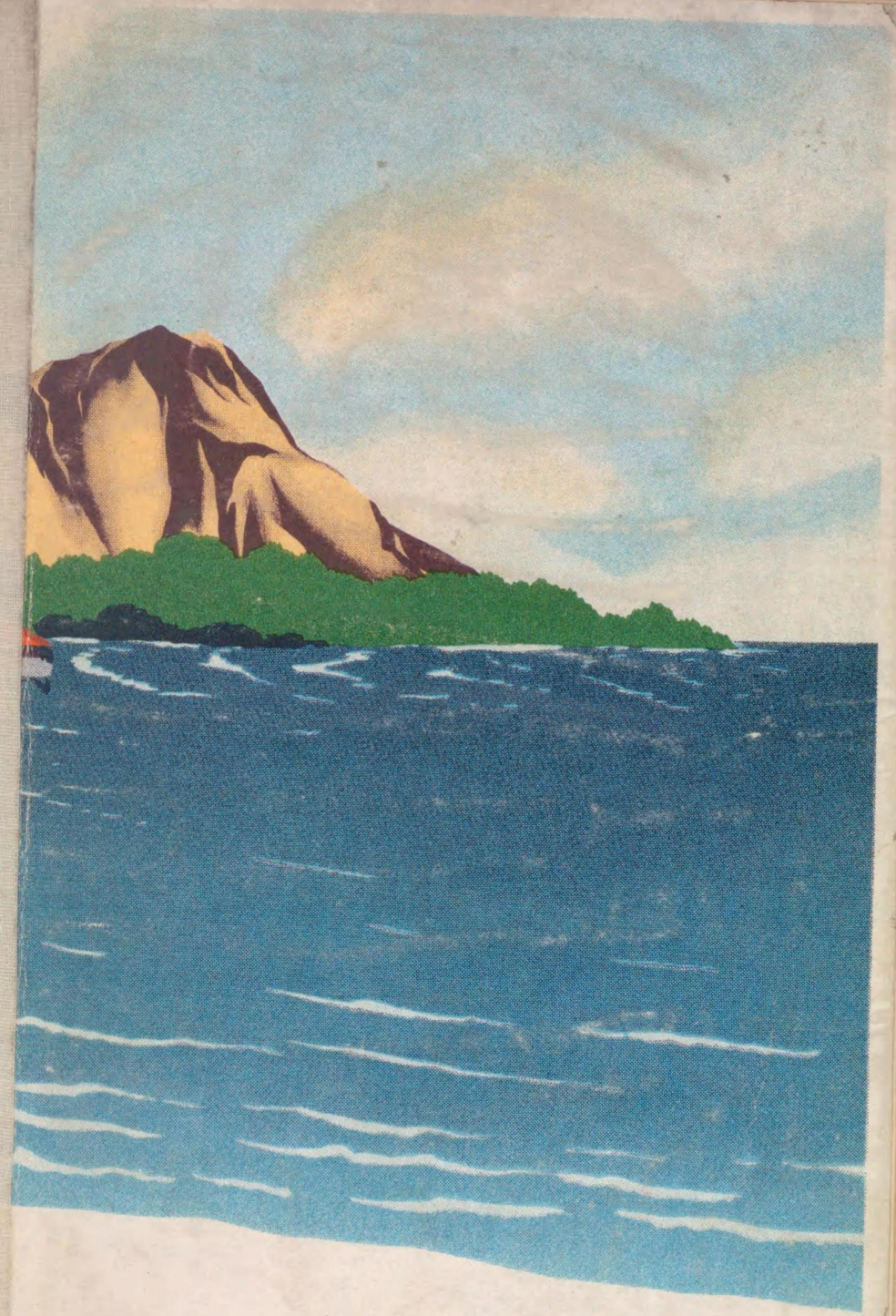
東京市京橋區築地三丁目十番地
印刷者 古橋照太郎
東京市京橋區築地三丁目十番地
印刷所 株式會社東京築地活版製造所

No.2—5m.　Printed in Japan

68
2

68
2

683
263



Kodak Gray Scale

C Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

inches 1 2 3 4 5 6 7 8

cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black